

一誠堂古書目錄

令和四年十一月 第一三二号

A
2022

CATALOGUE

OF

THE

ISSEIDO

NO.131

一誠堂古書目録



国際古書籍商連盟



日本古書籍商協会

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-------|-----|----------|-----|---------|-------------|--------|----|----|-------|-----|----|-----|-----|------------|--------------|-----|-----|-------|----|----|
| 洋書 (後表紙から始まります) | 美術・複製 | 考古学 | 芸能・演劇・映画 | 漢文学 | 近代文学・評論 | 和歌・万葉・連歌・俳諧 | 国語・国文学 | 神道 | 宗教 | 民俗・風俗 | 郷土誌 | 伝記 | 東洋史 | 移民史 | 洋外交渉史・切支丹史 | 政治・社会・経済・産業史 | 日本史 | 書誌学 | 全集・叢書 | 和集 | 目次 |
| | 九七 | 九四 | 九二 | 八九 | 八三 | 七九 | 六八 | 六六 | 五八 | 五四 | 五三 | 四八 | 四〇 | 四〇 | 三五 | 二九 | 二〇 | 一七 | 一三 | 一 | 一 |

御挨拶

日頃より格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて弊社古書目録第百三十一号が出来上りました。幸いお目に留まる品がございましたら何卒ご用命くださいませう、お願い申し上げます。

昨年ホームページをリニューアルいたしました、お蔭様にてご好評をいただいております、感謝申し上げます。近年発行した目録を画面上でもご覧いただくことができるようになっておりますので、オンラインショップページ共々こちらも併せてご利用いただければ幸いに存じます。

本年は古書に関わるイベントが徐々に再開しつつあり、うれしい限りです。私共は引き続き感染対策に万全を期し、ご来店をお待ち申し上げます。

どうか皆様におかれましてはお健やかに新年を迎えられますよう、祈念申し上げます。

令和四年十一月

一誠堂書店

酒井健彦

☆勝手ながら年末年始は十二月三十日(金)より

一月四日(水)まで休業させていただきます。

御注文について

☆掲載品はほとんどが在庫一部限りでございますので、なるべく早く御照会の上、前金にて御注文下さい。

☆官庁・学校・図書館等の御注文は前金を要しません。納品、支払いに要する書類等を御注文の際にご指示下さい。見計らいをご希望の場合はご相談下さい。

☆表示価格は全て総額表示(消費税込)となっております。

☆御送金は左記銀行口座振込又は郵便振替をご利用下さい。

みずほ銀行九段支店(当座預金) 〇一〇〇五七六

三菱UFJ銀行神保町支店(当座預金) 九〇二〇九八五

三井住友銀行神田支店(当座預金) 二〇三四七四

郵便振替 〇〇一五〇一―二五二八―

☆店頭でのお支払いにつきましては各種カード及バーコード決済をご利用になれますのでお申し出下さい。

☆荷造費・送料は実費を頂戴致しております。

☆本目録掲載品以外にも多数在庫がございますので御探しの本がございましたら御遠慮なく御照会下さい。

営業時間 午前十時～午後六時半
祝祭日 午前十時半～午後六時

定休日 毎日曜日

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町一―七

電話 〇三(三二九二)〇〇七一(代)

FAX 〇三(三二九二)〇〇九五

Eメール mai@isseido-books.co.jp

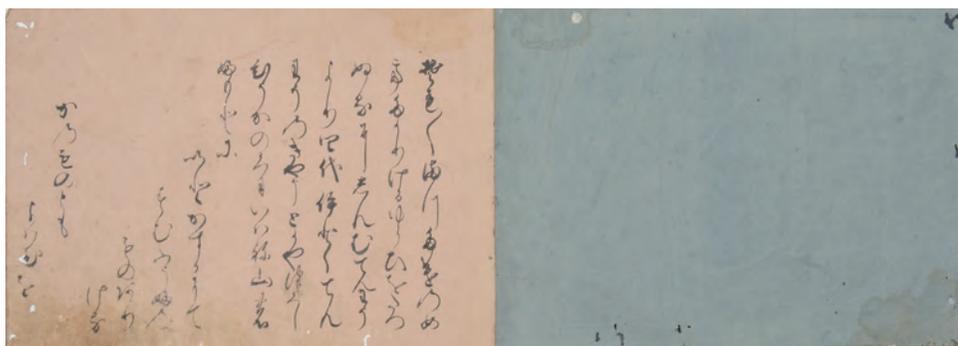
店舗二階(洋書・和本)直通 電話 〇三(三二九二)〇〇七二
FAX 〇三(三二九二)〇〇七六

最寄駅 地下鉄三田線・新宿線・半蔵門線「神保町駅」(出口A7・A5)

より徒歩約一分 JR御茶ノ水駅・水道橋駅より徒歩約十分

四 徒然草 江戸中期写 大本

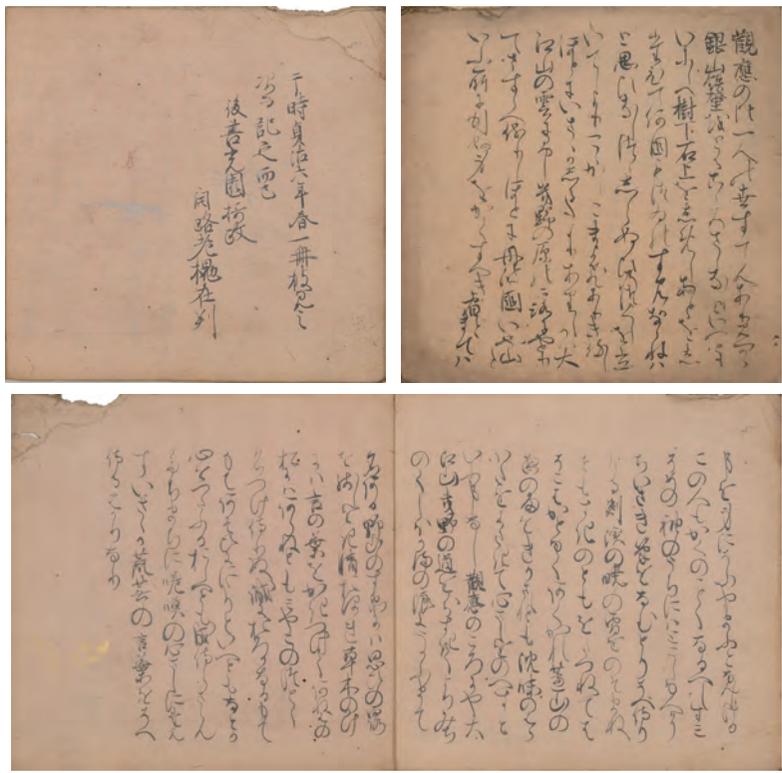
二冊 一六五,000円



5 松竹物語 奈良絵本 江戸前期頃写

1冊 880,000円

六 都のつと 紀行 宗久著 江戸前中期写 貞治六年元奥書 裝飾料紙 一帖 五五〇〇円



八 根南志具佐 談義本 全五卷 天竺浪人(平賀源内)著 紙鳥堂風来画 (宝曆十三年)刊 少後印 半紙本 二册 八三〇〇円



九 時勢世話談義 談義本 梅福著 安永八年求版 平賀源内序 絵入 半紙本 原裝 五册 六八三〇〇円



一〇 夫泉郎婦中珠取 おとあまふちのたま取り 黒本 (宝暦十三年) 刊 鱗形屋版 中本
三田村彦五郎旧蔵 三冊 七五〇〇円



一一 新撰和歌集 紀貫之撰 元禄八年刊 美濃判 原装 朱書入有 二冊 二七五〇円

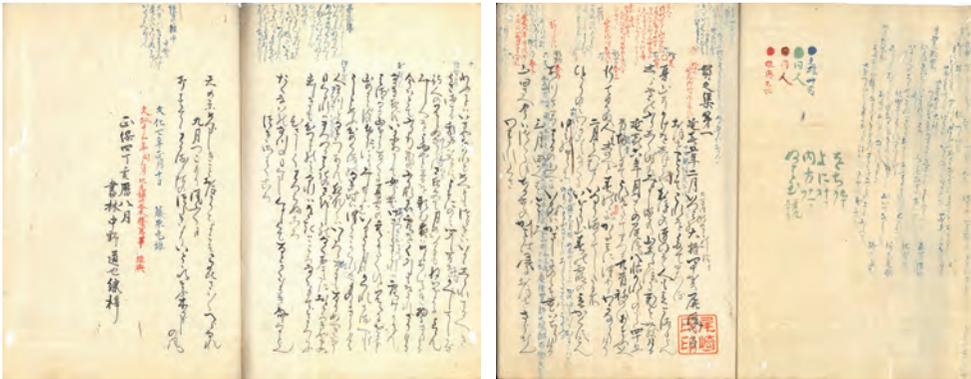


一二 瑠璃壺御集 伝菅原道真 江戸後期写 美濃判 大阪天満宮社家寺井家旧蔵か 一冊 四四〇〇円

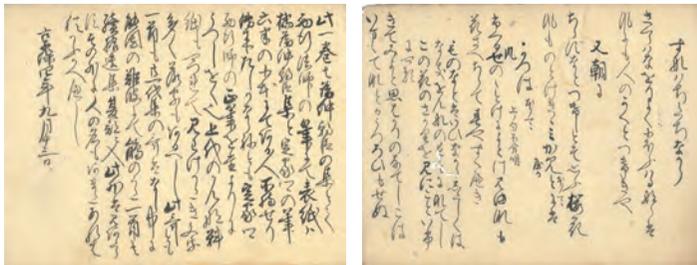




一三 大井河行幸和歌考証 井上文雄著
 文政三年序刊 久邇宮文庫等旧蔵
 美濃判 原裝 一冊 四〇〇〇円



一四 歌仙家集 三十六人集 正保4年中野道也版写本 文政13年菰野藩主土方雄興写
 小林元雄（歌城）書入本の写し 半紙本 虫食有 5冊 93,500円



一五 橘為仲朝臣集 静正院慈久書
 享保四年奥書 少虫食有
 一帖 一六五〇円

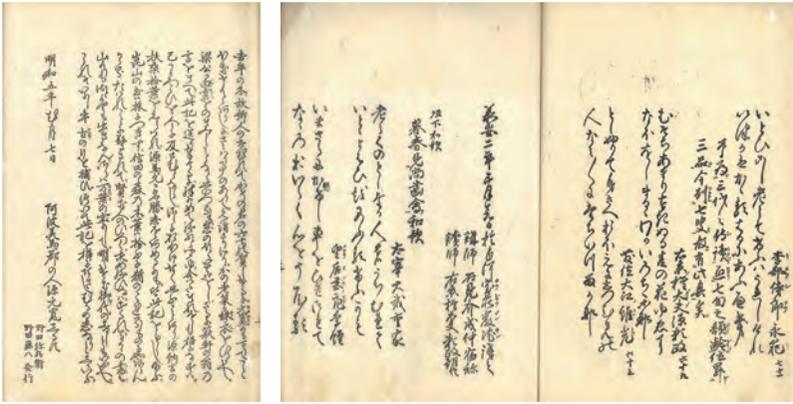


一六 清輪袋草紙 歌学 藤原清輔著
 貞享二年刊 美濃判 原裝
 四冊 四〇〇〇円

一七 暮春白河尚歯会和歌并序

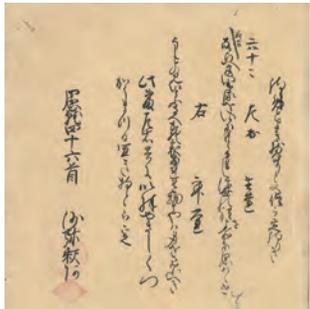
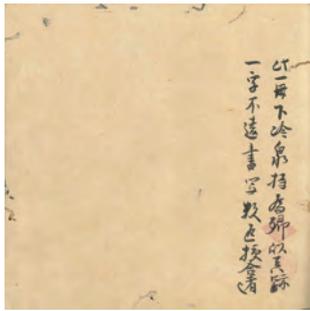
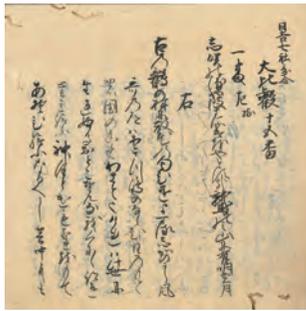
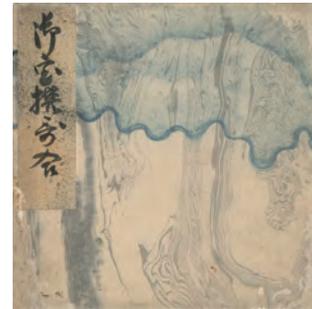
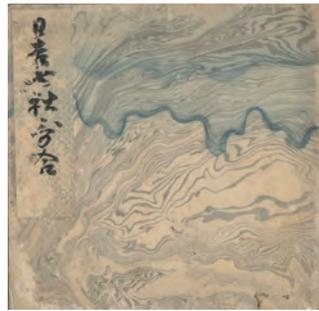
藤原清輔編 源元寛(曾我部容所)注
明和五年刊 承安二年尚歯会記録
美濃判 原裝 系図入

一冊 三八五〇円



一八 日吉七社歌合／御室撰歌合

陸奥石沼藩藩主田村建頭旧蔵 藤原俊成判 江戸中期写
少虫食有 二帖 三五二〇〇円



一九 水無瀬歌合 恋十五首歌合

建仁二年九月十三夜
藤原親定(後鳥羽天皇)等詠
俊成判 寛文七年刊 半紙本
原裝 一冊 三二〇〇円



三 俊成九十賀 [源家長] 著

正保二年奥書 朱書入あり
平戸藩主松浦静山旧蔵
少虫食 一冊 三六〇〇円



三 顕昭陳状 顕昭 永正五年書写元奥書

江戸後期写 美濃判 一冊 一九八〇円

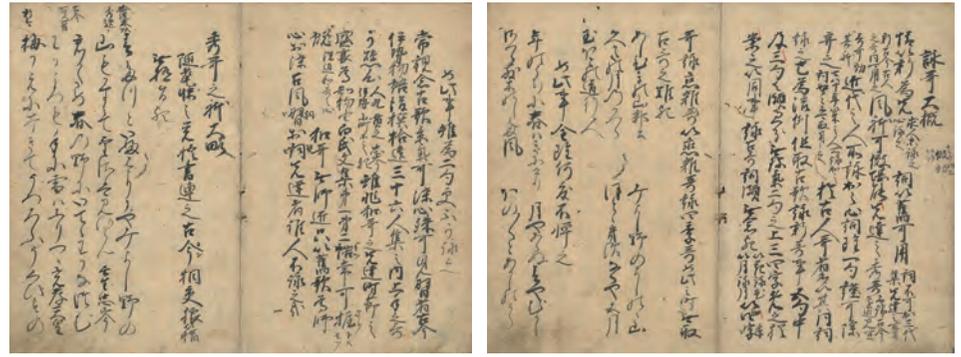


三 難題百首口伝書 藤川百首注

江戸中期写 一帖 八三〇〇円



22 詠歌大概 室町期写 真名本 秀歌之躰大略共 少虫食有 1帖 82,500円

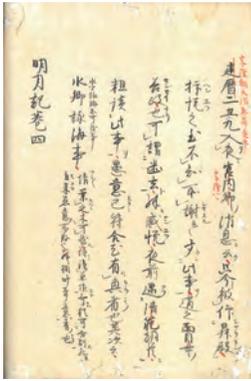


二四 明月記歌道事 明月記抄出

〔一条兼良〕編 江戸中後期写
末一冊欠か 南葵文庫旧蔵

美濃判 虫食有

四冊 三三〇〇円



二五 順徳院御百首 享保二年源某写

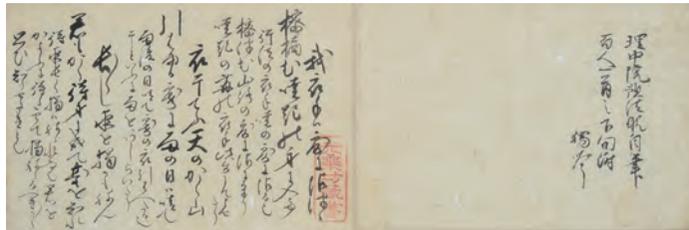
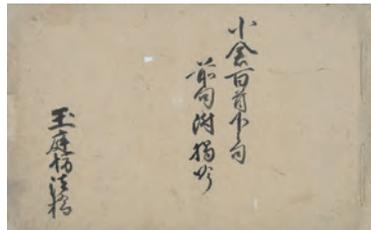
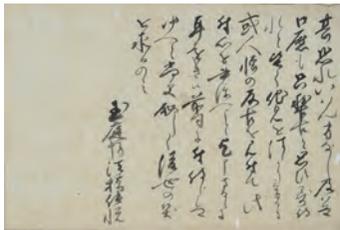
半紙本 薄葉料紙 少虫食有
一冊 二〇〇〇円



三〇 小倉百首下之句前句附独吟

玉庭坊法橋能悦著 江戸後期目筆

一冊 二六〇〇円



三一 堯孝法印集 堯孝日記

江戸中後期写 美濃判
少虫食有
一冊 三三〇〇円





二六 小倉百人一首かるた 江戸後期頃作
 読札・取札各百枚揃 塗箱入 一組 六八〇円



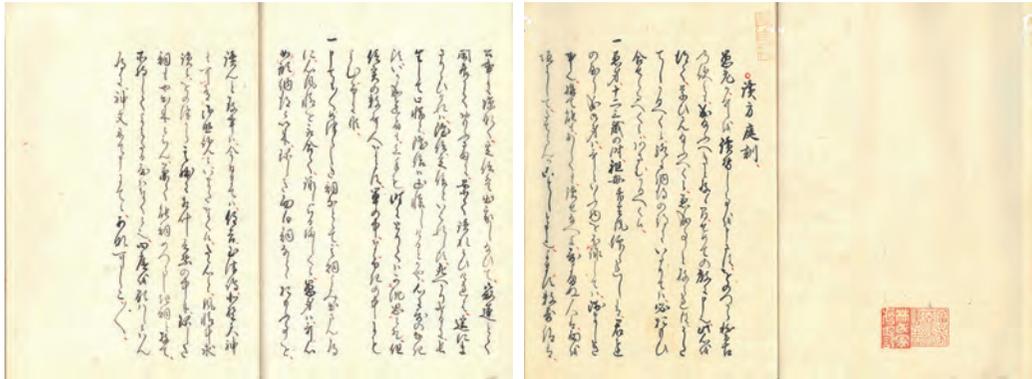
二七 小倉百人一首かるた 明治十八年藤保杏所作
 読札・取札各百枚揃 桐箱入 一組 三〇八〇円



29 新板百人一首 [明治]刊 中本 原装 絵入
 木版墨刷 1冊 4,400円



28 [源氏百人一首] 江戸後期刊 中本 少後印
 1冊 16,500円



32 読方庭訓 今川了俊著 応永16年元奥書 江戸後期写 辨要抄又は了俊一子伝 美濃判

1冊 16,500円



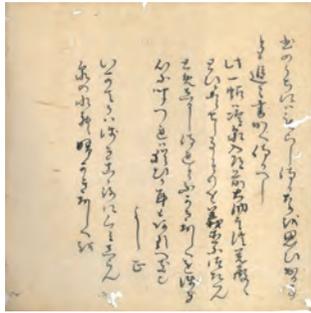
三 筆のまよひ 飛鳥井雅親著
元禄三年刊 作歌心得
半紙本 一冊 八八〇円



三 和歌手習 寛文四年刊
一部少傷み・欄外に少虫食有
半紙本 二冊 一、〇〇〇円



三 春樹頭秘抄 出仁葉之大事
江戸中期写 半紙本 少虫食有
一冊 三〇八〇円



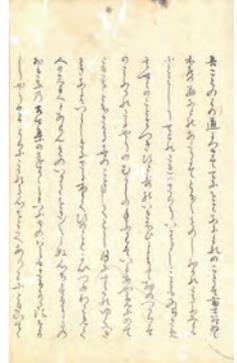
三
宗匠家御教諭 冷泉為村述
宮部義正記 江戸後期写
一帖 二七,500円



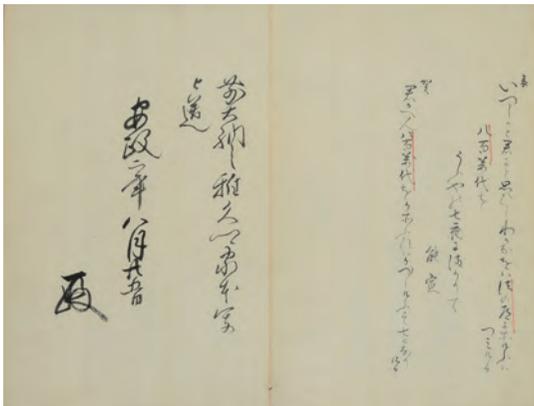
40 千首部類 小沢蘆庵編 安永4年跋刊
中本 薄葉刷 1冊 11,000円



37 ふりわけかみ 小沢蘆庵著 寛政8年刊
和歌入門書 美濃判 一部少染み・僅か虫食
1冊 13,200円

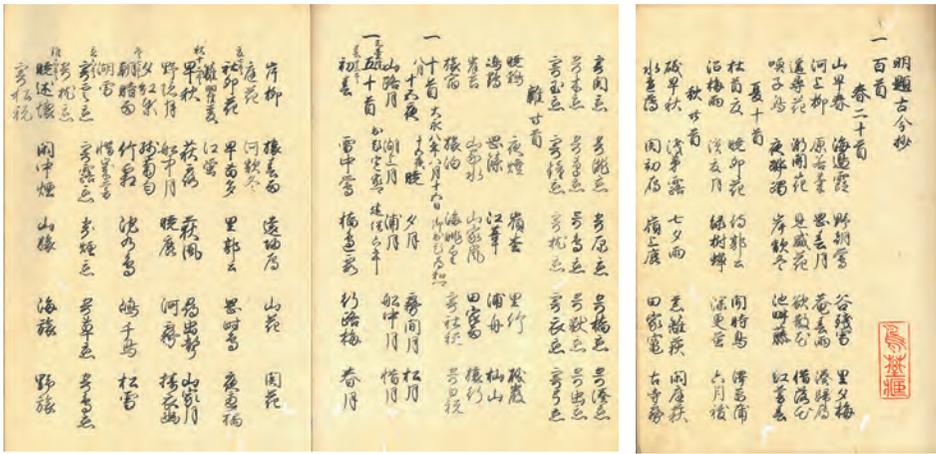


三
千木のかたそぎ 山田常典著
嘉永七年自序 江戸末期写
美濃判 虫食有 一冊 八,800円



三九
三代集 仮名題歌 江戸末期写
古今・後撰・拾遺 大本
鷹司家旧蔵 一冊 四,000円

四 明題古今抄 江戸前期写 歌題集成書
鳥野幸次旧蔵 大本 一冊 一〇四〇〇円



四 夜燈之目錄追加 江戸中期写 名数歌・歌合集
色替り料紙 一冊 四九五〇円

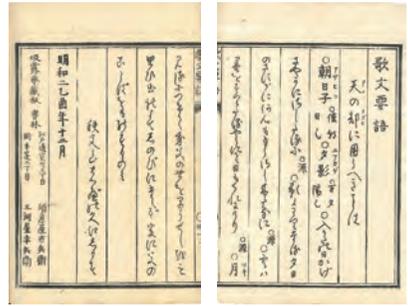


四 (類題) 江戸前期写 歌題集 色替り料紙
大本 少虫食有 二冊 三〇〇〇円





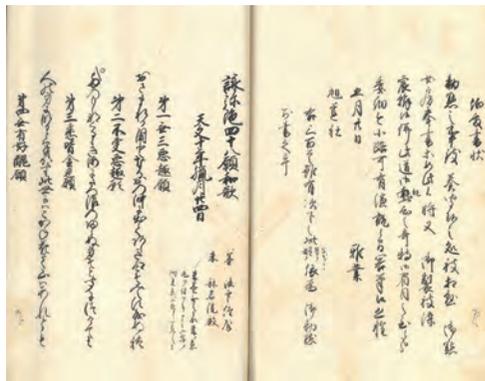
四七
道澄百首 聖護院道澄詠 江戸中期写
元龜三年元奥書 美濃判 日野家旧蔵
虫食補修有 一冊 三〇八〇〇円



44 歌文要語 建部綾足著 明和2年刊
歌語辞典 小本 原装
1冊 11,000円



四八
和歌主玷抄 歌語辞書 伊呂波順
藤原(柳原)資前自筆
江戸後期筆 半紙本 上下二卷
二冊 二〇〇〇〇円



四九
朽木集 天文十年頃詠
京都知恩院第二十七世燈誉光然歌集
江戸後期写 美濃判
一冊 一六五〇〇円



五〇
方輿勝覽 後陽成天皇著
安政三年日野西延采写
名所和歌集 半紙本
少虫食有 一冊 二七五〇〇円

四 二十一代集名所作例備考

含章齋(赤井)一貞著
文化五年源正信写 美濃判
一冊 一九八〇円



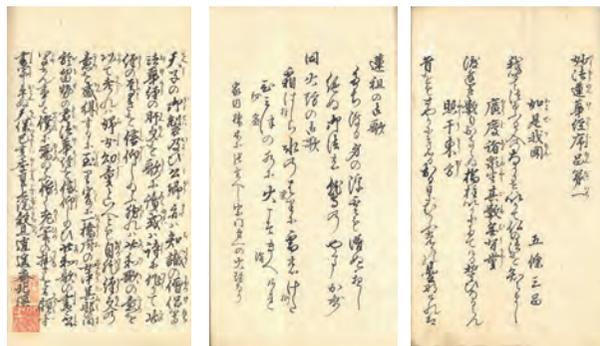
五 美濃国名所和歌 江戸後期写

延享三年節齋主人編 同四年奥書有
淡彩画入 美濃判 一冊 四二八〇円

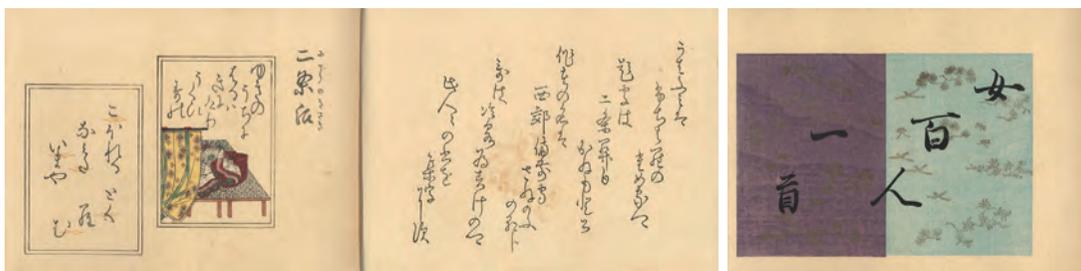


五二 法華經一部二十八品和歌

五条三品(藤原俊成)等詠
天保十年追遠齋北溟写
半紙本 一部少虫食有
一冊 二七、五〇円

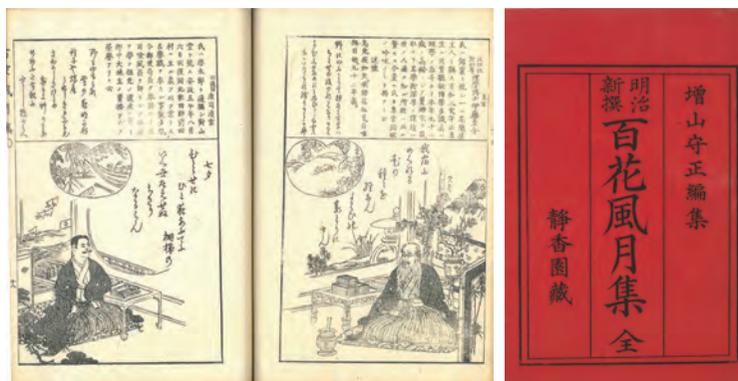


52 和歌伊勢海 享保5年刊 歌学 半紙本 原装 少水染み・一部少虫食 3冊 33,000円



53 女百人一首〔嘉永4年〕刊 彩色刷美本 元箱付 厚冊

1冊 55,000円



四
明治新撰 百花風月集 明治百人一首
増山守正編并蔵版 明治二十七年刊
美濃判 肖像入 一冊 二六五〇円



五
名所方角抄 宝永四年刊
連歌論 絵入 半紙本
三卷合本 三井南家旧蔵
一冊 三八五〇円



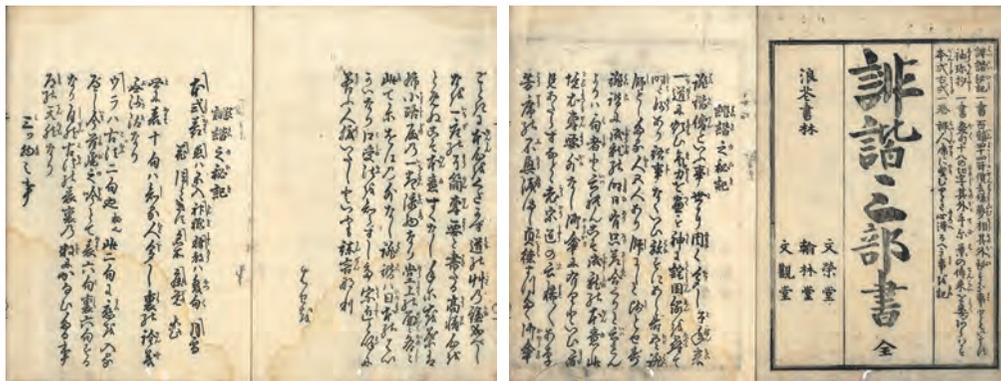
56 随葉集〔如睡〕著 寛永14年刊 連歌 三卷合本 一部少虫食有

1冊 110,000円



57 誹諧清匏 松月堂千翁（不角）編 江戸中期刊 半紙本 小口少傷み

8冊 165,000円



58 誹諧之秘記 誹諧三部書の内〔芭蕉〕著〔宝暦9年〕刊 半紙本 薄い水染み

1冊 30,800円



五

狂歌不卜集 便々館湖鯉鮒編
文化元年跋刊 中本 原装
二冊 11,000円

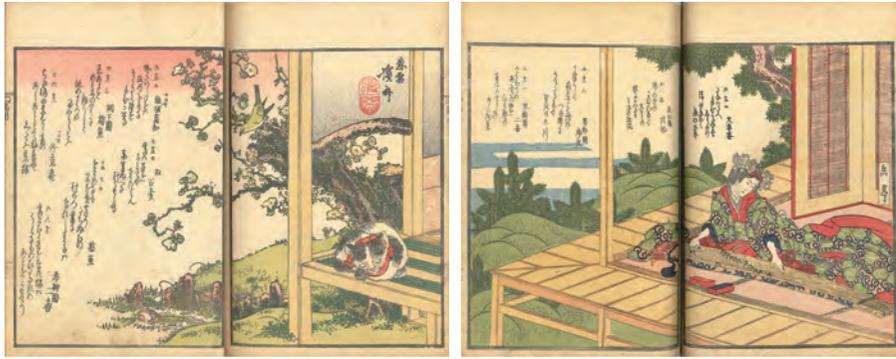


六

廻文百餘くるま 三友亭著
文化五年跋刊 廻文狂歌
中本 一冊 四,200円



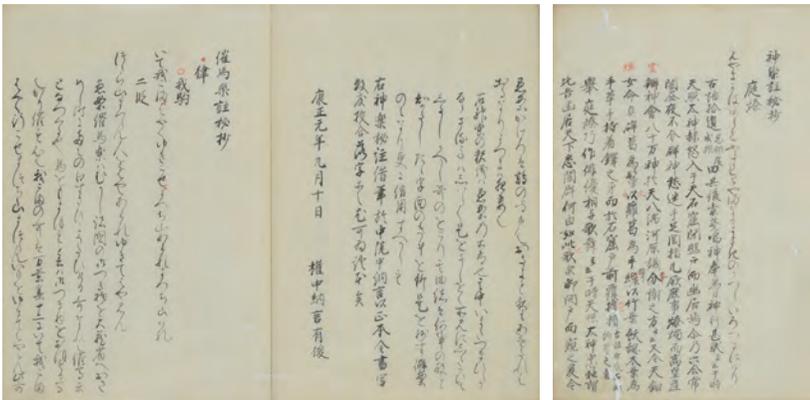
六
列仙列女画像集 石川雅望・鹿都部真顔等撰 岳亭・北溪画
文政七年刊 半紙本 原裝
二冊 一三〇〇〇円



三
狂歌節用集 有欠
六樹園(石川雅望)等編
岳亭定岡・溪齋英泉画
江戸後期刊 半紙本 原裝
一冊 一六〇〇〇円

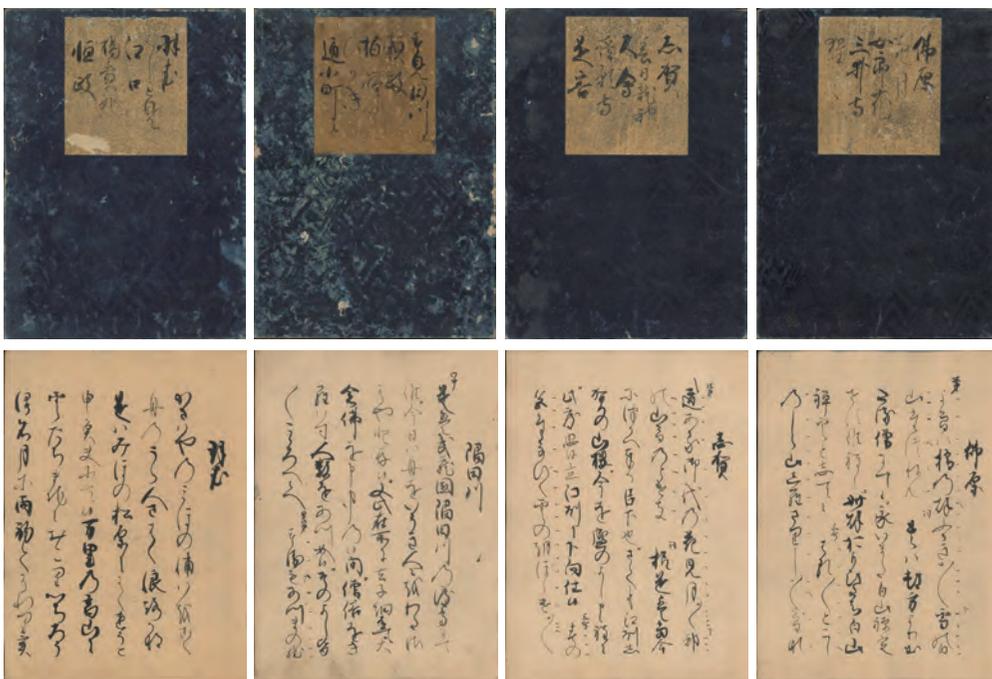


三
狂歌大和名所抄 前・後編
童屋海城・鶴屋梅好等撰 長水画
天保十三年序刊 半紙本 原裝
一冊 二七五〇〇円



六四
神楽註秘抄・催馬楽註秘抄
一条兼良著 江戸中期頃写 雅楽注釈
梁塵愚案抄 大本 一冊 七二五〇〇円

五 謡本二十番 江戸初〜前期写 観世流 節付 五番綴 四帖 二六〇〇円



六 大鏡 江戸中期刊 少後印 美濃判

原裝 神田息胤校合書人有
岡田眞旧蔵 八冊 八、〇〇〇円

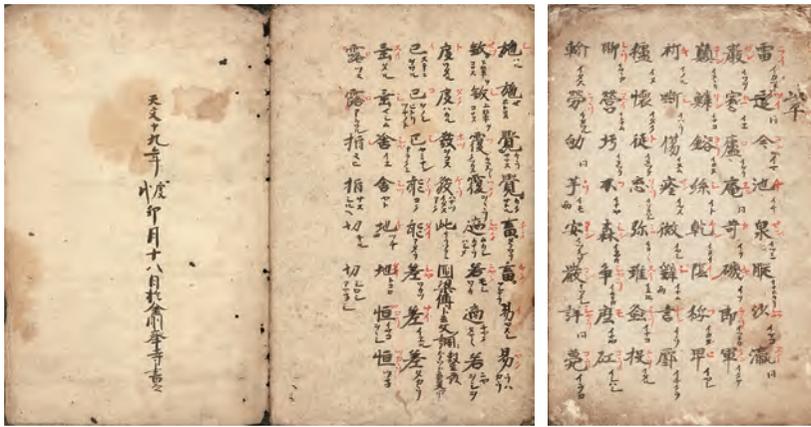


六 東雅 新井白石著 享保四年序

江戸後期写 辞書 美濃判
少虫食有 二十卷及首一卷揃
一〇冊 三、五〇〇円



六七 (以吕波字平它) 天文十九年写 辞書
四二二一字所収 一帖 七〇〇〇円



六八 訳文筆蹄初編 荻生徂徠著
宝曆三年再版 国語学 半紙本
原裝 六冊 一九八〇円



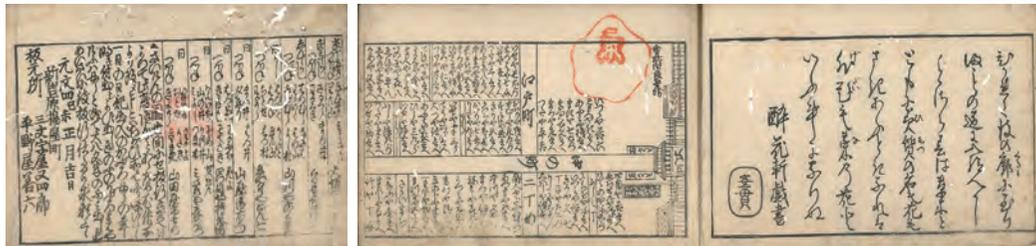
七〇 環海航路日記 広瀬保庵著 相原南浦等画 文久二年頃刊 美濃判
表紙少虫食・少染み 一関藩主田村家旧蔵 二冊 三五〇〇円





71 東海道名所図會 秋里籬島編 北尾政美等画 寛政9年刊 美濃判 原装

6冊 132,000円



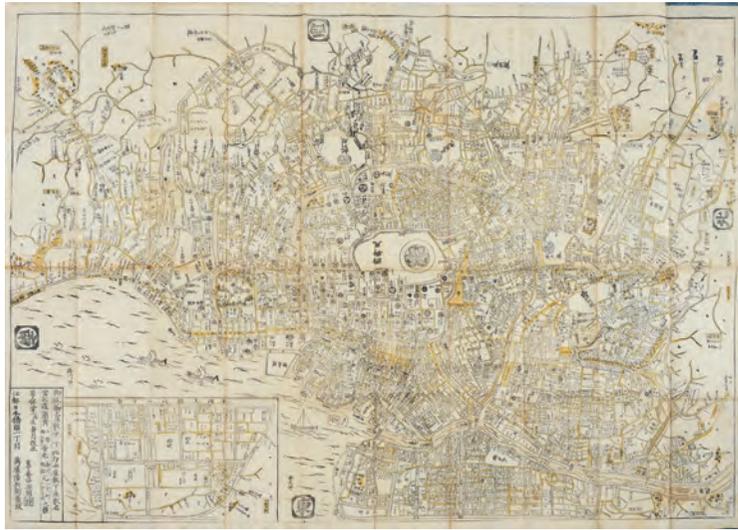
72 〔菜の花〕 吉原細見 元文4年刊 大田南畝旧藏 虫食有

1冊 275,000円



73 東都歳時記 斎藤月岑編 長谷川雪旦画 雪堤補画 天保9年刊 半紙本 原装 数丁僅か墨染み

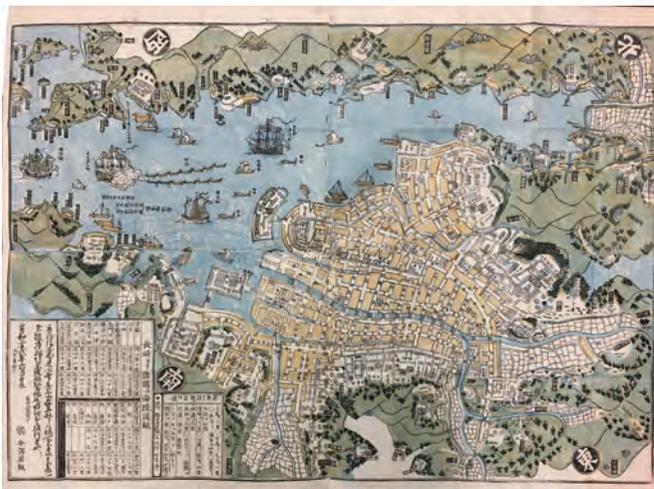
5冊 72,600円



七
板新 江戸分間絵図 菊岡沾涼図 享保二十一年刊
『続江戸砂子』附図 六二・八×八六〇〇櫃
古い手彩色入 一舗 八八〇〇円



左 正改 昌平御江戸絵図 天保刊 四八三×五二一〇櫃
彩色刷入 一舗 五三八〇円



六 新刻 肥前長崎図 丙午(弘化三)年求版
牛深屋版 六五・八×八八櫃 彩色刷入
一舗 八三五〇円



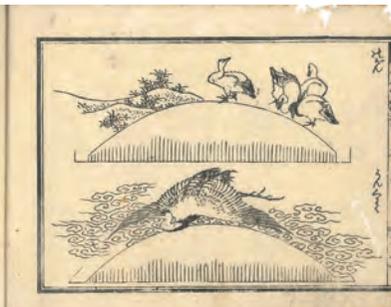
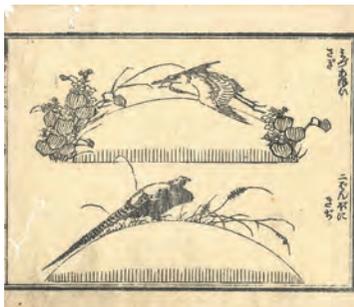
78 北斎漫画 二編 葛飾北齋画〔文化12年〕刊 半紙本 薄墨・砥粉刷入 1丁少染み・ノド一部やや虫食
1冊 220,000円



79 北斎漫画 四編 葛飾北齋画〔文化13年〕刊 半紙本 薄墨・砥粉刷入 ノド一部少虫食
1冊 242,000円



〇 今様櫛篋雛形くしの部 下 葛飾北齋画〔文政六年〕刊
図案見本五十七図等 三冊の内 少虫食 一冊 九六、八〇円



七 光琳画式 文化十五年刊

美濃判 原裝 淡彩色刷

一冊 二四二〇〇円



八二 新理解 豊稔五穀祭 初号

万亭応賀著 惺々晧齋画
明治五年刊 中本

一冊 五三八〇円



八三 画国 芥子園画譜六譜 明治十四年刊

原田勝三図集并加筆 淡彩色刷
半紙本 原裝 二冊 三〇〇〇〇円



八三 いろは 東都富士尽ぬ 沼

一勇斎国芳・とり女画 嘉永五年刊
「飯沼勝五郎」「九段坂のふし」
少トリミング・少染み・裏打

一枚 三、〇〇〇円



八四 近世 水滸伝 波形紋袴 仮名垣魯文暗記

三代豊国画 文久二年刊
沢村田之助 上下少トリミング

一枚 二、七五〇円



八五

近世水滸伝 井岡の捨五郎 仮名垣魯文暗記
三代豊国画 文久二年刊
沢村訥舛 上下少トリミング
一枚 二七、五〇円



八七

近世水滸伝 神刀奥次 仮名垣魯文暗記
三代豊国画 文久二年刊
中村歌右衛門 僅か虫穴補修
一枚 二七、五〇円



八九

近世水滸伝 羅漢の武蔵 仮名垣魯文暗記
三代豊国画 文久二年刊
市川九蔵 トリミング・褪色
一枚 二四、一〇〇円



九二

近世水滸伝 提緒の猪之介 仮名垣魯文暗記
三代豊国画 文久二年刊
河原崎権十郎 少補修
一枚 一九、八〇〇円



八六

近世水滸伝 銚子の五郎造 仮名垣魯文暗記
三代豊国画 文久二年刊
片岡仁左衛門
一枚 二七、五〇円



八八

近世水滸伝 篠崎の政吉 仮名垣魯文暗記
三代豊国画 文久二年刊
坂東彦三郎 トリミング
一枚 二四、一〇〇円



九〇

近世水滸伝 波切重三 仮名垣魯文暗記
三代豊国画 文久二年刊
尾上梅幸 少虫穴・トリミング
一枚 二四、一〇〇円



九三

近世水滸伝 なだれの若松 仮名垣魯文暗記
三代豊国画 文久二年刊
市川市蔵 角少破れ・皸
一枚 一九、〇〇円



三 山林伐材圖解 明治時代前期頃写 木曾式伐木運材圖會 紙本彩色 紙高二六・二種

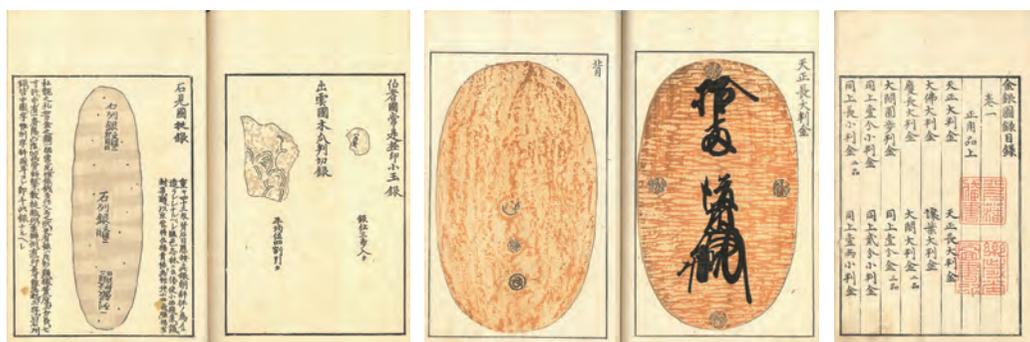


二卷 三五〇〇〇〇円

九四 金銀山敷岡稼方圖 幕末明治初期頃写 彩色上写 美濃判 四つ目綴じ 全九十二丁 黒川家旧蔵

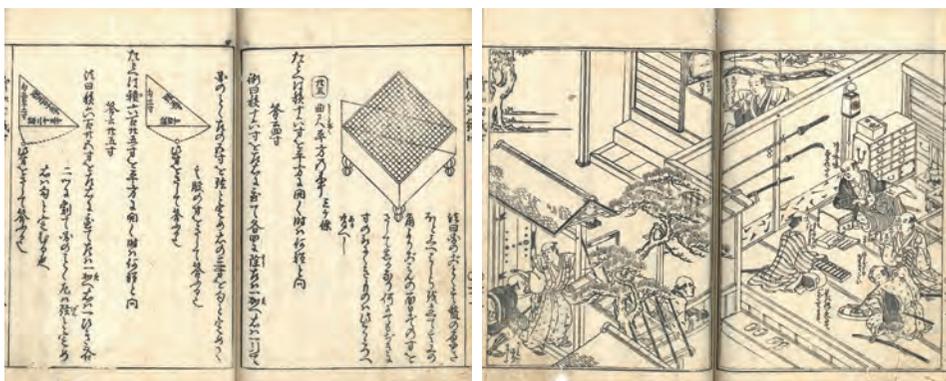


一冊 八〇〇〇〇円



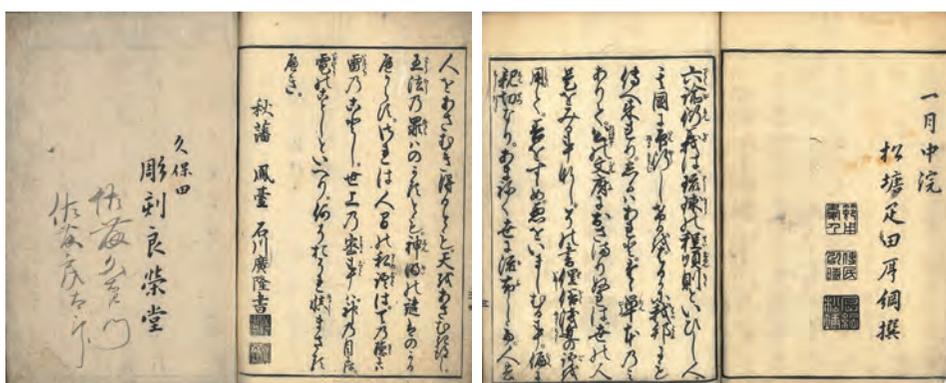
95 金銀図録 近藤守重編 文化7年序刊 半紙本 彩色刷 (一部に雲母刷) 貨幣図入 平戸藩主松浦静山旧蔵

7冊 74,800円



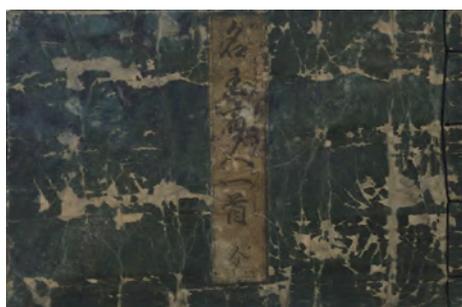
98 勘者御伽双紙 中根法触編 寛保3年刊 半紙本 和算

1冊 29,700円



100 六諭衍義大意 室鳩巢著 教訓 文政13年足田松塘序 石川鳳台版下書 秋田版 良栄堂刻 美濃判

1冊 16,500円



〇二 名玉百人一首 安永三年刊 虫食・水染み傷み

一冊 五,200円



一〇三 女訓百人一首 幕末頃刊 厚冊
美濃判 色刷口絵入
一冊 四九五〇円

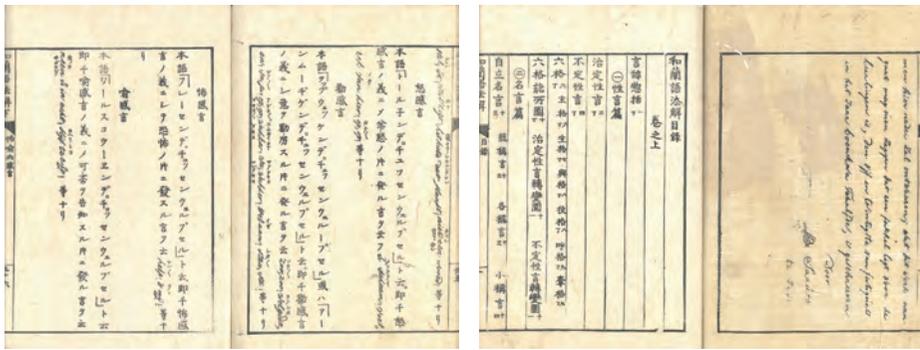


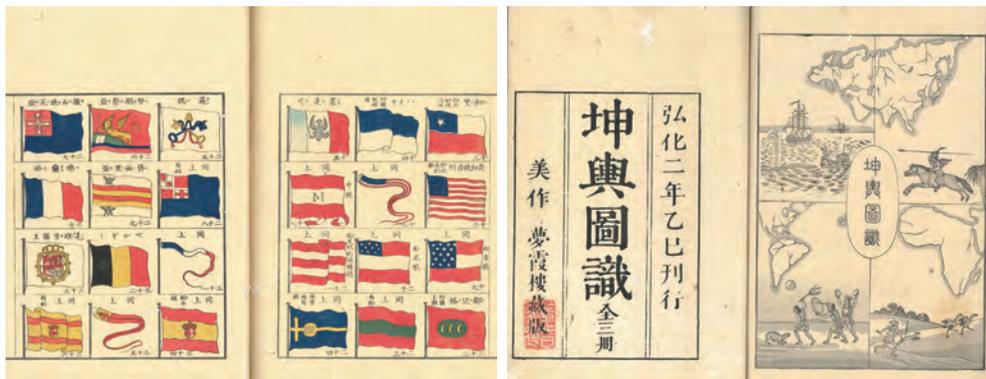
103 女筆岩根の松 筆海子長谷川妙林書 寛保2年刊 往来物 美濃判 原装 一部少虫食 3冊 55,000円

一〇四 本朝能書伝 橋行精著
安政三年刊 書道伝記 美濃判
原装 二冊 二七五〇円

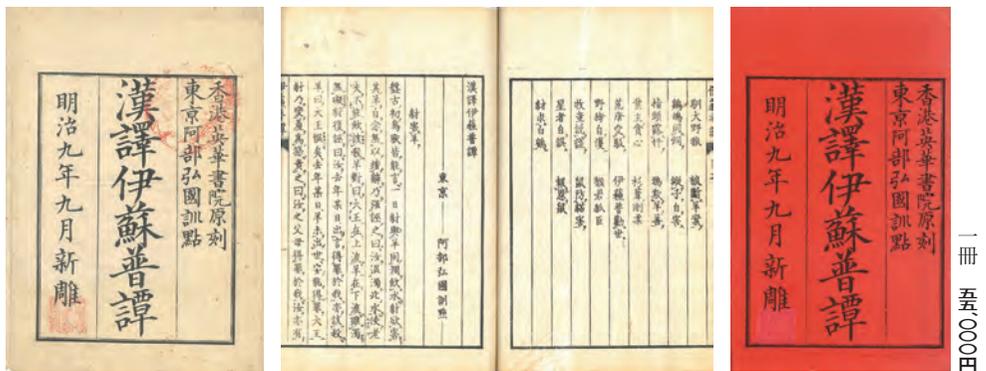


一〇五 和蘭語法解 藤林普山訳
文化九年序刊 半紙本 原装
オランダ語文法書
一部少虫食 三冊 三三〇〇〇円





一〇六 坤輿圖識 箕作省吾
弘化二・三年刊 補共 美濃判
原裝 少虫食有 七冊 七二五〇〇円



一〇七 漢譯伊蘇普譚 阿部弘國訓点
明治九年刊 香港英華書院原刻
半紙本 原裝 元袋付 一冊 五〇〇〇円



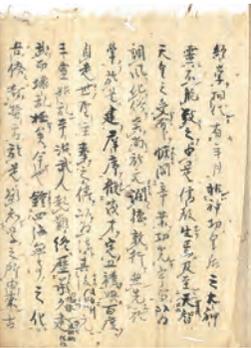
一〇八 新刊音釋校正標類蒙求
李廷機校輯 寬永二十年刊
外題「新蒙求」 美濃判 原裝
一冊 三三〇〇〇円



一〇九 字彙 明・梅膺祚撰
寬文十一年刊 忠興堂版 大本
原裝 一四冊 三八五〇〇円



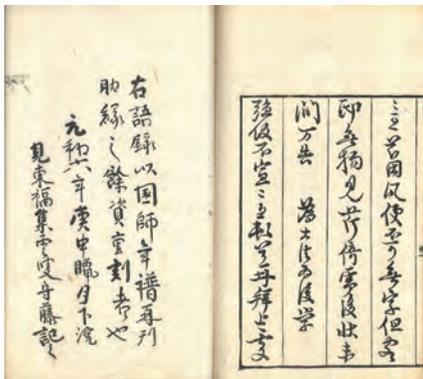
二四 禅林類聚撮要抄 (万安英種) 著
寛永十九年刊 7式カナ抄 大本
虫食有 四册 八三、五〇〇円



111 学原注/叙古千文注 元文3年中原友俊自筆 漢学 共紙表紙 虫食有 1册 55,000円

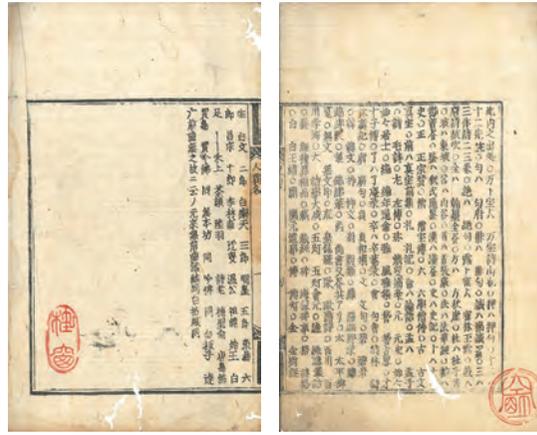


二二 花帝堂梅百首集 宮田五溪著
文化九年於信州別所刊 漢詩
美濃判 水染み有 一册 三〇八〇円

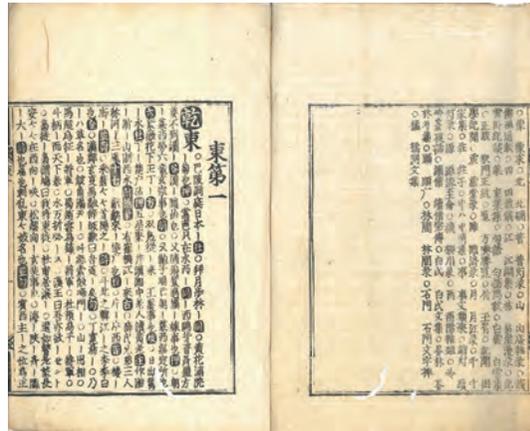


二二 聖一國師住東福禪寺語錄
聖一國師語錄 円爾辨円述
虎関師鍊校纂 元和六年集雲守藤版
美濃判 一册 三、八〇〇円

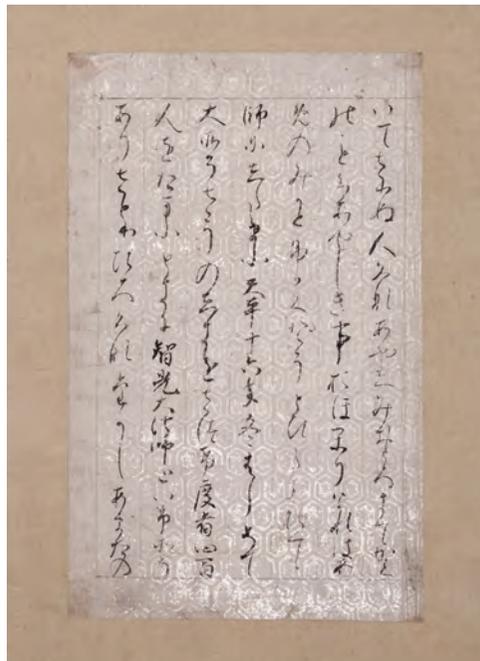
二〇 海蔵略韻 (虎関師鍊) 著 寛永頃刊 韻字書 西荘文庫旧蔵



二冊 三〇〇〇円



二五 東大寺切 『三宝絵』断簡 保安元年 伝藤原俊頼筆 軸装 一紙 三五〇〇〇円



和本本

一 伊勢物語

江戸前中期写
升形本 裝飾料紙

一帖 二二、〇〇〇

大きさ一六・八×一七・五糎。綴り表紙（裏表紙一か所に少虫穴あり）中央に雲紙の題簽「伊勢物語」（少擦れ）、金銀箔砂子散らし入の見返しを付す。奥書はない。本文は金泥下絵や藍刷模様を施した上質の布目料紙に美しい連綿がのった上本。桐箱（裏に「松花堂筆」云々とある後代の紙片を貼付）が破損、本と共に別の古い塗箱に収まる。写真版一頁参照

二 狭衣下紐

里村紹巴著 江戸初前期写
紅梅文庫旧蔵 元和四年寛佐元奥書有
少虫食

二帖 六〇、〇〇〇

帖の大きさ二四・四×一八・三糎。金銀泥下絵入翡翠色表紙（少虫食有）に金泥下絵入料紙の元題簽「下紐 上（下）」付。本文每半葉十行書き。卷末に「本云〓此抄二冊者去年以昌俛所持之本令〓書写之今茲又以法橋昌琢本校之〓元和四年應鐘朔日 寛佐」の元奥書有。本書は中田剛直「狭衣下紐諸本考」（昭和四十九年）において紹介された「紅梅文庫」（前田善子）旧蔵本で、長らく所在不明になっていたもの。やや虫食あるのが惜しまれる。写真版一頁参照

三 土佐日記抄

北村季吟著 寛文元年刊
出雲寺和泉掾版

三冊 一四、三〇〇

美濃判。元の藍色表紙に元題簽「土佐日記抄 上（下）」（僅か虫穴）付。「秦姓蔵書」（所用者不明）の旧蔵朱印有。写真版一頁参照

四 徒然草

江戸中期写

二冊 一五、〇〇〇

大きさ二八・三×一九・九糎の大本。金泥下絵入の鶯色表紙に金砂子散らし入り金泥下絵のある書題簽「つれ、草 上（下）」付。本文每半葉十一行書き。奥書はない。一部に極僅か虫食あるも保存は良好。写真版二頁参照

和本本

五 松竹物語

江戸前期頃写
奈良絵本

一冊 八〇、〇〇〇

大きさ一六・六×二四・五糎の横本。紺紙金泥下絵入金砂子散らし表紙（少虫食有）中央に金泥下絵入の丹色元題簽「松竹」を付す。見返しは藍紙。本文十三丁、每半葉十三行書き、ゆとりをもつて書写している。挿絵は四図（片面三図、見開き一図）あり、古雅な趣をたたえる。日向国岩根山に湧く水を飲んでたおかげで千二百年を生きている夫婦がいた。懿徳（いとく）天皇はそれを聞き、かの地に遷都して水を朝夕飲むと長生を保つことができたので、社を山のふもとにつくり、松と竹に姿を変えた夫婦を祀った。「いはい（岩井・祝い）に松竹を用いる由来を語る、「祝儀物」とよばれる室町物語である。写真版二頁参照

六 都のつと

宗久著 江戸前中期写
綴葉装 裝飾料紙

一帖 五、〇〇〇

一八・二×一八・五糎の升形本。綴葉装（綴糸を欠く）、共紙表紙に「都のつと」「釈宗久作」と打付書き。本文は金銀泥下絵入の斐楮交漉紙。末に貞治六年二条良基の元奥書入。歌僧宗久による観心年中の東国行脚紀行。京を立、東海道を下り、鎌倉・武蔵野を経て、北は宮城野・松島へと至る。東北地方への紀行としては最古のもので、松尾芭蕉『奥の細道』への影響も指摘されている。全体に薄い汚れ、一部小口に少傷み有。写真版三頁参照

七 曾呂里狂歌咄

瓢水子松雲処士（浅井了意）著
江戸後期刊 秋田屋太右衛門版
仮名草子 少後印 絵入 全五卷

三冊 七、五〇〇

美濃判。水色表紙に書題簽付。末に田中宋栄堂（秋田屋太右衛門）の蔵版目録六丁有。本文一部に僅か染みあるも保存は良好。「浩然圖書」（所用者不明）の旧蔵朱印有。写真版一頁参照

八 根南志具佐

天竺浪人（平賀源内）著
紙鸞堂風来画（宝暦十三年）刊
談義本 少後印 全五卷

二冊 二、五〇〇

半紙本。空押模様入り藍色表紙に元題簽「根南志草」「ねなしくさ」（共に巻名を後補ペン書き）、絵入元見返し付。本文保存は良好いがやや後印。「照顔書屋」（梶曲阜）、「尚古齋」「珍藏」（佐藤硯湖）の旧蔵朱印有。写真版三頁参照

和本

九時勢世話談義

梅籬著 安永八年求版
錢屋利兵衛等三都書肆版
談義本 平賀源内序 八

五冊 六、三〇〇

半紙本。元の藍色表紙（一部少擦れ）に元題簽「聞取／法問 時勢世話談義 一（〜五）」（一部破れ）、「風来和尚の説法は眼をさます浮世咄／聞取法問 時勢世話談義 全部五冊／定家卿のことに葉に花をさかせた艶弁舌／平安書林華箋堂梓」とある絵入元見返しを付す。僅かな虫食あるも保存はほ良。宝暦四年刊「八景聞取法問」五冊に風来山人浮世三分五厘（平賀源内）の序文を新たに付し、話の題や収録順序、内容の加筆や省略などの改編を加えて解題し再刊したもの。談義本ならではの教訓や風刺を滑稽に記す話のほかに、疱瘡守札で著名な組屋六郎右衛門（左衛門とも伝わる）の話も含まれる。写真版三頁参照

二 夫泉郎婦中珠取

（宝暦十三年）刊 鱗形屋版
黒本 三田村彦五郎旧蔵

三冊 七五、〇〇〇

中本、元の黄土色表紙に藍色元題簽「新／板 夫泉郎婦中珠取／おとこあまふちうのたまとり 上（中・下）（鱗形屋の商標）」、紅色の絵入副題簽「男玉とり 中（下）」（上巻は剥落）付。柱題「男珠取（丁数）」。「詞花和歌集」所収の伊勢大輔「いにしへの奈良の都の八重桜今日九重にはほひぬるかな」の歌に隠された秘話という設定で、お家騒動、忠義、復讐、恋などを描く内容となっている。部分的に極僅かな虫食あるほかは保存、刷ともに良好。各表紙の見返しに江戸期の草双紙コレクター三田村彦五郎の旧蔵墨書があり、彼の手になるものと思われる古雅な彩色が数丁に施されている。「日本古典籍総合目録データベース」には二件の所蔵（うち一件は有欠）が載るのみ。写真版四頁参照

二 新撰和歌集

紀貫之撰 元禄八年刊
河内屋吉兵衛等版 朱書入有

二冊 三三、五〇〇

美濃判。元の水色表紙に元題簽「新撰和歌集 上（下）」、紅刷下絵（褪色有）入の元見返し付。本文極僅か虫食あるも刷・保存はほ良。一部に「照海案スルニ……」等の朱書入、及び「照海」の旧蔵朱印あり。他に「鐫木蔵書」（鐫木家）、「伊藤文庫」（所用者不明）の旧蔵印有。写真版四頁参照

三 瑠璃壺御集

伝菅原道真 江戸後期写
和歌 大阪天満宮社家寺井家旧蔵か

一冊 四、〇〇〇

美濃判。白茶色表紙左上部に「瑠璃壺御集」と打付書き、又右上部に「第十五番」の紙片を貼付。本文十四丁、每半葉二十二行書き。「瑠璃壺之詠歌百首」（瑠璃壺秘歌三十首）を含む、寛治二年為長元奥書有）と「御詠集」（春・夏・秋・冬・恋・雑ほか）よりなる。奥書はない。「浪華菅原寺井家文庫」「寺井庫」の旧蔵朱印があり、大阪天満宮の社家、寺井家のものか。写真版四頁参照

三 大井河行幸和歌考証

井上文雄著 文政三年序刊
久邇宮文庫等旧蔵

一冊 四、〇〇〇

美濃判。元の薄藍色表紙に元題簽「大為河行幸和歌考証」付。本文刷保存とも良。「深川文庫」（鈴木真年）、「久邇宮文庫」（久邇宮家）の旧蔵朱印有。序文のみ伝わる大井河行幸和歌について、撰集・家集から四十八首を探し出して考証したもの。写真版五頁参照

四 歌仙家集

三十六人集 正保四年中野道也版写本
文政十三年孤野藩主土方雄興写
小林元雄（歌城）書入本の写し 虫食有

五冊 三三、五〇〇

半紙本。臙脂色表紙に書題簽「歌仙家集 一（〜五）」、「イ」の墨書付箋貼付有。本文每半葉十五行書き。伊勢国孤野藩十代藩主土方雄興（ひじかたかつおき）が、師の小林元雄（歌城。村田春海門下の国学者）の書入ある正保四年中野道也版「歌仙家集」を写し、自らの注をも加えたもの。墨で書かれた本文の行間あるいは欄外に、師注が藍（文化七年注の元奥書有）、同人注が緑及び朱、自注が紅（文政十三年注の書写奥書有）で緻密丁寧に書入れられている。雄興は文学、殊に和歌に通じ、「蔵書以外の和書歌書を繕写すること七十四部百四十一冊に達し」とい（「孤野町史」）、当該書もそのうちのひとつである。写真版五頁参照

五 橘為仲朝臣集

享保四年奥書
静正院慈久書 少虫食有

一帖 二六、五〇〇

一三・八×一八・三糎、共紙表紙中央に「橘為仲朝臣集」、左下に「静正院慈久書」と墨書。料紙を横に二つ折りした大和綴。每半葉十三〜十五行書き。本文は『私家集大成』所収の書陵部蔵本（一五〇・五六八）と比するに九〇〜九三の四首、及び九六以降の九首を欠く。末に「此一巻は為仲朝臣の集とて／西行法師の筆にて表紙は／橘為仲朝臣集と定家卿の筆／六半の小本にてある人所持せり／伝来たしかならねとも定家卿／西行法師の正筆をたよりに／うつしをく之上代のみな料／紙もやつれて見わけかたき文字／多く落字もあるへし此哥とも／一首も廿一代集の哥はなし中に／能因の難波にて鶴のうた一首は／續拾遺集夏部に入此外は見あたらずその外に人の名もあまたあれば／猶かふかへへし／享保四年九月十三日」の奥書がある。写真版五頁参照

六 清輔袋草紙

藤原清輔著 貞享二年刊
中川茂兵衛・弥兵衛版
歌字

四冊 四、〇〇〇

美濃判。元の空刷模様入り枯色表紙に元題簽「清輔袋草紙 一（〜四）」付。本文刷・保存ともほ良。写真版五頁参照

二七 暮春白河尚歯会和歌并序

藤原清輔編 源元寛(會我部容所注)明和五年刊 野田弥兵衛・藤八版 承安二年尚歯会記録 一冊 三、五〇〇

美濃判。元の薄水色表紙に元題簽「清輔朝臣尚歯會記一付。本文刷保存とも良。承安二年藤原清輔主催の尚歯会の記録で、仮名序・和歌・日記よりなる。「藤原清輔朝臣系図」及び元寛跋を巻末に付す。写真版六頁参照

二八 日吉七社歌合／御室撰歌合

藤原俊成判 江戸中期写 陸奥岩沼藩藩主田村建頭 二帖 三、三〇〇
蔵 少虫食有

二帖とも同じ装訂、書写者によるもの。綴葉装、墨流しに雲紙をあしらった表紙に唐紙の書題簽「日吉七社哥合」及金銀砂子散らし料紙の書題簽「御室撰哥合」を付す。本文は斐楮交漉料紙。「日吉七社歌合」は「慈鎮和尚自歌合」ともい建久末頃の成立、「御室撰歌合」は建仁元年頃の成立で、いずれも藤原俊成判とされている。「芸叢」「芸叢之印」(陸奥岩沼藩藩主田村建頭)の旧蔵朱印有。写真版六頁参照

二九 水無瀬歌合

藤原親定(後鳥羽天皇)等詠 俊成判 寛文七年刊 林生堂開板 建仁二年九月十三夜 恋十五首歌合 一冊 三、三〇〇

半紙本。元の藍色表紙(少擦れ)に元題簽「水無瀬歌合 判俊成」付。刷保存ほぼ良。写真版六頁参照

三〇 俊成九十賀

〔源家長〕著 正保二年奥書 朱書入あり 平戸藩主松浦静山旧蔵 一冊 三、五〇〇
少虫食

大きさ二五・六×一八・四糎。香色表紙に小さく「俊成九十賀」と打付書き。本文十二丁、每半葉八行書き。藤原俊成九十賀の記事を源家長日記より抄出したもので、「よろつのみちをまなひをさける人々の……」の一文より始まり、所々に本文と同筆の朱書入れがある。巻末に元奥書「これは家長日記に作りし事ともかきぬきて人のみるへきものにては候はぬ」、続いて「寛永二十一此とし正保元年末の冬わつらはしく風をいと／ひてひきこもりあ侍るに様々にかきうつつとくのとし／中のはる下の二日に垣齋といへる和歌の道しれる／世捨人にあひてところ、朱を付侍る」なる「土屋」某の奥書がある。「樂歳堂圖書記」「平戸藩蔵書」「子孫永寶」(松浦静山)の旧蔵朱印有。写真版七頁参照

三 頭 昭 陳 状

頭昭 江戸後期写 永正五年書写元奥書 一冊 一、八〇〇

美濃判。元の渋引き表紙(題簽剥落痕有)付。本文墨付二十九丁、一部に僅か虫穴、点シミあり。六百番歌合の俊成判に対する頭昭の反論。末に「右借請参議藤原元長筆跡本に時永正五年九月上旬之比／令書寫之訖／城南男山隠士宗勝在判」の書写元奥書がある。一類旧蔵朱印有。写真版七頁参照

三 詠 歌 大 概

〔藤原定家〕著 室町期写 真名本 秀歌之躰大略共 少虫食有 一帖 三、五〇〇

大きさ二一・四×一四・三糎。綴葉装、金銀泥下絵入りの香色表紙(擦れ、題簽剥落痕有)に金銀箔散らし料紙の見返し付。本文は斐楮交漉料紙、両面書き。「詠歌大概」は片面八行、「秀歌之躰大略」は同九行。奥書はない。写真版七頁参照

三 難題百首口伝書

江戸中期写 藤川百首注 一帖 三、五〇〇

帖の大きさ二三・八×一七・七糎。綴葉装、巻雲紋の緞子表紙付、題簽なし。本文は布目人の斐楮交漉料紙。両面書き、片面十行。奥書はない。「藤川百首」の注釈書なるも宗祇注にはあらず。伝本あまりない。写真版七頁参照

三 明 月 記 歌 道 事

〔二条兼良〕編 江戸中後期写 明月記抄出 末一冊欠か 虫食有 南葵文庫旧蔵 四冊 一三、〇〇〇

美濃判。沙綾形紋の空刷模様入り鼠色表紙に書題簽「明月記 一(四)付。尾題は「明月記卷一(四)」。本文每半葉五行書き、本文と同筆の朱書入有。各巻頭に旧蔵印「紀伊徳川／南葵文庫」(南葵文庫)、「舊和歌山徳川氏蔵」(徳川頼倫)、「金子蔵書」(金子彦二郎)を有する。奥書はない。建暦二年七月二十三日より同四年十二月十三日までを欠く、五冊のうち存四冊が。但し各冊の表紙に貼付された南葵文庫のラベルには「冊 4」とあることから、早くに逸したものと思われる。小口付近に虫食や多く見受けられるも本文読解にはほぼ差し支えない。写真版八頁参照

三 順 徳 院 御 百 首

享保二年源某写 少虫食有 一冊 二、〇〇〇

半紙本。香色表紙に「順徳帝御百首」の藍色書題簽付。本文薄葉料紙、十一丁。每半葉十二行書き。末に「右御百首享保二年八月望膳寫焉／源(花押有)」の書写奥書有。ノド部分に少虫食有。写真版八頁参照

三 小 倉 百 人 一 首 か る た

江戸後期頃作 読札・取札各百枚揃 塗箱入 一組 六、八〇〇

札の大きさ七・七×五・四糎。絵札の絵は木版下絵に彩色を施したもの。字札は墨書。絵字共に表に銀砂子を散らし、裏一面を薄い銀泥にて塗る。保存ほぼ良。写真版九頁参照

和本

三 小倉百人一首かるた

明治十八年藤保杏所著
読札・取札各百枚揃

一組 三〇、八〇〇

札の大きさ九・一×六・一種。読札は上の句を墨書、裏は代赭色紙張り。取札は歌仙絵ではない種々の淡彩墨絵を描き、下の句を墨書、裏は藍色紙張りの自家製かるた。上蓋に「倭百人一首」と記す桐箱入、なお箱裏に「明治十八年第一月／吉日寫 武田君指正／藤保杏所生」の奥書がある。写真版九頁参照

三 源氏百人一首

江戸後期刊 少後印
菊屋鉄五郎・本屋金之助版 絵入

一冊 一六、五〇〇

中本。元の薄水色表紙に元題簽「源氏百」（以下破れ）、「六玉川和歌集」と題する六図の絵入元見返し付。口絵「和歌三神」半丁及「紫式部石山寺へ……」半丁に続き、本文二十五丁。半丁につき、かるた絵札仕立ての百人一首を二首と、源氏歌・三光の内・十二ヶ月の内などの二首を収める。写真版九頁参照

三 新板百人一首

〔明治〕刊
絵入 木版墨刷

一冊 四、四〇〇

中本。元の蜀江紋繫ぎ紫色表紙に「新板百人一首」の元題簽、「万寶百人一首」と題する六歌仙絵入元見返し付。口絵半丁に続き本文二十五丁。半丁につき、かるた絵札仕立ての百人一首を二首。三十六歌仙歌合・七夕歌などの頭書入り。写真版九頁参照

三 小倉百首下之句前句附独吟

玉庭坊法橋能悦著
江戸後期自筆

一冊 一六、六〇〇

大きさ一四・七×二二・九種の横本。料紙を横に二つ折りした大和綴、「小倉百首下之句／前句附獨吟／玉庭坊法橋」と墨書のある共紙表紙を付す。本文十八丁。「小倉百人一首」の各句の下の句を前句附けたもの。所々に付箋貼付による改書がみられ、末に、これも一紙が付された自跋がある。筆者の玉庭坊法橋能悦は後人による添書きによると「北野（天満宮）の社僧にして光乗坊宗淵法印の叔父」といい、それを裏付けるかのように本文初丁に「光乗坊蔵書」（北野天満宮宮仕光乗坊か）の旧蔵朱印が捺されている。写真版八頁参照

三 堯孝法印集

堯孝 江戸中後期写
堯孝日記 少虫食有

一冊 三、二〇〇

美濃判。洪引き表紙に「堯孝法印集」と打付書き。本文二十五丁、每半葉十一行書き。文安三年正月一日から同四月二十八日までの歌会関係の記事及び詠草を日記的に記す。末に寛永十年烏丸光広の元書写奥書有。写真版八頁参照

三 読方庭訓

今川了俊著 江戸後期写
辨要抄又は了俊一子伝
応永十六年元奥書

一冊 一六、五〇〇

美濃判。元の紺表紙に雲紙の書題簽「讀方庭訓 全」付。内題にも「讀方庭訓」とあるが本文は「辨要抄」又は「了俊一子伝」と呼ばれる、了俊がその一子のために著した詠歌の初学書。「富子家蔵圖書之記」「林氏家蔵之記」（以上二顆所用者不明）、「有吉蔵」（有吉保）の旧蔵朱印有。写真版一〇頁参照

三 筆のまよひ

飛鳥井雅親著 元禄三年刊
深江屋太郎兵衛版
作歌心得

一冊 八、八〇〇

半紙本。元の藍色表紙に元題簽を僅かに残す。本文保存良。「適堂元前蔵書」（所用者不明）の旧蔵朱印有。写真版一〇頁参照

三 和歌手習

寛文四年刊 ささうしや喜左衛門版
歌学

二冊 一、〇〇〇

半紙本。元の藍色表紙に元題簽（上巻は剥落、下巻中央に「和歌の手習 下」）付。尚内題は「和歌手習」。上巻小口少傷み、一部欄外に少虫食有。写真版一〇頁参照

三 春樹頭秘抄 出仁葉之大事

江戸中期写

一冊 三〇、八〇〇

半紙本。藍色表紙（少傷み）に銀砂子散らし丹色書題簽「春樹抄」付。本文料紙楮紙。写し手と同筆の朱書入有。末に元和八年烏丸光廣元奥書、以下数種の元奥書があり、最後に明和六年准木亭河上維妻の書写奥書并花押がある。少虫食有。写真版一〇頁参照

三 宗匠家御教諭

冷泉為村述 宮部義正記 江戸後期写
義正聞書 歌学

一帖 三七、五〇〇

大きさ一六・六×一八・一種。松葉散らしの抹茶色表紙（少虫穴）付、題簽なし。本文薄葉料紙七十七丁、每半葉十二行書き。末数丁に僅か虫食あるほかは保存良い。宮部義正が師の冷泉為村の教えを書き記したもの。写真版一一頁参照

三 ふりわけかみ

小沢蘆庵著 寛政八年刊
吉田四郎右衛門版
和歌入門書

一冊 三、二〇〇

美濃判。元の薄水色表紙（やや擦れ）に元題簽「ふりわけかみ 全」付。本文一部に少染み、欄外に僅か虫食有。「八幡寺内裏門筋養素館」「正明之印」「蘆乃舎夢佛」（以上三顆所用者不明）等の旧蔵朱印有。写真版一一頁参照

三 千木のかたそぎ 山田常典著 嘉永七年自序 江戸末期写 一冊 八、八〇〇
歌学 虫食有

美濃判。曙色表紙(虫食・擦れ有)に「山田常典 千木のかたそぎ」と墨書。本文墨付百二十一丁、每半葉十行書き。自序・目次に続き本文「第一 ことのはふかれたるくさゞ、」より「第九 初句にいへることの一哥の心に及ぼされたる」まで、および員外序歌を収める。写真版一頁参照

三 三代集仮名題歌 江戸末期写 古今・後撰・拾遺 鷹司家旧蔵 一冊 四、〇〇〇
三〇・六×二一・二種、大ぶりの上本。雲紙表紙に「假名題歌」と打付書き。本文七十二丁、每半葉九行書き。初丁上部欄外に「鷹司城南館図書印」の朱印、裏見返しに安政二年の所蔵奥書あり。写真版一頁参照

四 千首部類 小沢蘆庵編 安永四年跋刊 一冊 二、〇〇〇
中本、藍色表紙付、外題なし。宗良・耕雲・為尹・宋雅の各千首、及び文明十三年九月千首和歌を部類し並べたもの。巻末に各千首の奥書をまとめて掲載する。写真版一頁参照

四 明題古今抄 江戸前期写 鳥野幸次旧蔵 一冊 一四、五〇〇
歌題集成書

二八・四×二〇・五種の大本。藍刷の花唐草模様表紙に丹色書題簽「明題古今抄」(少擦れ)付。本文五十一丁、每半葉十三行書き。奥書はない。組題を集めたもので、催事の名・年・出題者名を記したのも含む。伝本あまりない。下部欄外に僅か虫穴あるも保存はば良い。「鳥野蔵」(鳥野幸次)の旧蔵朱印有。写真版二頁参照

四 夜燈之目録追加 江戸中期写 名数歌・歌合集 色替り料紙 一冊 四、五〇〇
美濃判二つ切りの横本。緑色表紙に金箔散らし料紙の見返し付、外題なし。藍刷模様入りの遊紙に続き、本文は藍・灰・紅の三色を歌集ごとに用いた色替り料紙。武家百人一首(十四丁)・伊勢物語和歌(十八丁)・職人歌仙(十三丁)・同歌合(五丁)・十二類歌合(三三丁)・五行和歌(二二丁)・水無瀬川釣殿当座六首歌合(三三丁)・殿上歌合(二二丁)・天神十二時御詠(二二丁)・布袋歌(二丁)・六観音歌(二丁)・三曙(二丁)・七夕七首和歌(二丁)・五節(二丁)を収める。一穎旧蔵朱印有。写真版二頁参照

三 (類題) 江戸前期写 歌題集 色替り料紙 少虫食有 三冊 三〇、〇〇〇

二八・八×一九・八種の大本。曙色表紙付、上巻に「■題上 春」の書題簽が僅かに残り、かつ下巻巻頭に「類題」とあることより書名を推定する。本文は黄・灰・水・橙の四色を一丁ずつ交互に用いた色替り料紙、上巻五十五丁、下巻六十六丁。春・夏・秋・冬の各部ごとに歌題を物や概念に基づいて集め列記したもの。返点や読み、また一部には校合書入などもあり興味深い。奥書や蔵印などはないが、上巻見返し紙に後筆による「飛鳥井文庫旧蔵/雅章御筆 二冊」の紙片貼付がある。写真版二頁参照

四 歌文要語 建部綾足著 明和二年刊 須原屋市兵衛・三河屋半兵衛版 一冊 二、〇〇〇
歌語辞典

小本。元の薄水色表紙(少擦れ)に元題簽「歌文要語」付。五・七・七の十九音よりなる「片歌」に用いる語句を「古事記」をはじめとする十七の文献より引き、「天」「地」「火」「水」などの部門ごとに分類して掲載。写真版一三頁参照

四 和歌圭玷抄 藤原(柳原)資前自筆 江戸後期筆 二冊 一〇、〇〇〇
歌語辞書 伊呂波順 上下二巻揃

半紙本。藍色表紙中央に朱墨にて本文と同筆で「和歌圭玷抄 上(下)」と記す。本文は四周及辺、有界十行の料紙、上巻墨付九十九丁、下巻同九十五丁よりなる。少虫食有。「常民」(所用者不明)の旧蔵印がある。伊呂波順の歌語辞書。「喜撰式」「綺語抄」より「雑木抄」「匠材集」に至る五十七もの古辞書、歌論書などを引書とし、又為家・俊成・定家から宗祇・紹巴・宗碩に至る十五家の説をも加え編纂されている。尚巻初には「從五位下藤原資前編集」と編者の記名があり、本文には「資前案……」「資前考……」などとして彼の考察が所々に書き加えられている。資前は「続史愚抄」を編纂した柳原紀光の二男。日本古典籍総合目録データベースに記載された唯一の著書に「歌枕露のよすが」なる岩瀬文庫蔵本があり、当該書はこの岩瀬文庫本の内容をさらに深め著されたものではないかと推測される。写真版一三頁参照

四 朽木集 京都知恩院第二十七世燈誉光然歌集 一冊 一六、五〇〇
天文十年頃詠 江戸後期写

美濃判。藍色表紙に「朽木集」と打付書き。本文十四丁。見返し紙に「朽木集三巻歌集知恩院廿七世灯誉上人撰述歌数七百七十七首此内三百七十首後奈良院之勅点也右之内四十八願之歌有之泉州南部春木村西福寺什寶也(中略)灯誉上人、初八号燈誉上人、又八号鎌上人」云々と記した紙片を貼付する。写真版一三頁参照

和本

聖護院道澄詠

江戶中期写
元龜三年元奥書 日野家旧蔵
虫食補修有

一冊 三〇、八〇〇

縦長の美濃判。薄鼠色表紙に「道澄百首」と打付書き。内題は「詠百首倭調」。本文十丁、每半葉十一行書き。やや虫食あるも丁寧に補修済み。「日野庫」(日野家)の旧蔵朱印有。写真版一三頁参照

安政三年日野西延栄写

後陽成天皇著 安政三年日野西延栄写
名所和歌集 少虫食有

一冊 二七、五〇〇

大和綴の半紙本。洪引き表紙に「方輿勝覽」と打付書き。序半丁、目次四丁半、本文七十六丁半よりなる。なお名所歌の配列は伊呂波順(「稻荷」から)。末に日野西延栄による書写奥書「這一巻以橋本家本馳禿筆了」安政三年九月中旬右衛門佐藤原延榮がある。裏見返しに金沢文化協会(金沢市立図書館の後援団体)による昭和八年展覧会出陳証の貼付有。写真版一三頁参照

含章齋(赤井)一貞著

文化五年源正信写

一冊 一六、八〇〇

美濃判。白茶色表紙中央に「二十一代集名所作例備考」と墨書。寛保元年自序一丁、凡例一丁、目録一丁、本文八十三丁。末に「右一冊者含章齋所考之也後以宝曆甲戌年慎齋書寫之為秘藏也矣」文化戊辰秋七月赤坂源正信寫の書写奥書がある。三類旧蔵朱印有。二十一代集の所載歌に詠まれた名所を伊呂波順に並べ、国名と歌集名を記したものの。写真版一四頁参照

延享三年節齋主人編

同四年奥書有
江戶後期写
淡彩画入

一冊 四、八〇〇

美濃判。弁柄色表紙に書題簽「美濃國名所和歌 全」付。序文及び目録三丁(末に延享四年の奥書有)、本文三十一丁(淡彩色人名所給十七図入)、延享三年自跋一丁よりなる。「緑樹亭藏書」の旧蔵墨書有。写真版一四頁参照

五条三品(藤原俊成)等詠

天保十年道遙齋北溟写
一部少虫食有

一冊 二七、五〇〇

半紙本。模様刷表紙に書題簽「法華經一部二十八品和歌 全」付。本文墨付四十七丁。「序品第一」より「普賢菩薩勸発品第二十八」までの各品を題とする和歌三百二十八首と、「蓮祖の御歌」「同火防の御歌」「同痲瘡平癒の御歌」「同御歌」五首を取める。仏教用語には振り仮名が付されている。末に天保十年道遙齋北溟による書写奥書(二顆押印有)一丁入。写真版一四頁参照

享保五年刊

和泉掾出雲寺元丘梓行
歌学 絵入
少水染み

三冊 三三、〇〇〇

半紙本、元の藍色表紙に元題簽(擦れ破れ有)付。上・中の二巻は「名所尺和歌」(中巻尾題より)で、「音羽川」より「三津浜」までの百図、および百鉢百人一首・信実染筆歌仙之写・和漢詩歌合・三曙和歌・三夕和歌・飛鳥井雅章吉野記・集外歌仙を取める。下巻は「染筆相伝之事」で、色紙・短冊・屏風の仕様伝書。本文少水染み、一部に少虫食有。写真版一四頁参照

嘉永四年刊

元箱付 厚冊
彩色刷美本

一冊 五、〇〇〇

大きき一三・一×一九・一。元の白絹表紙中央に緑絹の元題簽、紅色元見返し(表裏とも)付。料紙は厚手の上質料紙。紙字および「うはふみはふちはらのため家卿……」云々の扉一丁に続き、百人一首かるた仕立てで半丁に読札取札一組ずつの本文五十丁よりなる。刊記はないが嘉永四年岡田屋嘉七・仲屋徳兵衛版と同版で、色版、特に銀色刷を多用する極上刷本。本体と同じ元題簽を付す元箱が付属する。写真版一五頁参照

増山守正編并蔵版

明治二十七年刊
明治百人一首 肖像入

一冊 一六、五〇〇

美濃判。元の黄色表紙に紅色書題簽、「増山守正編集/明治/新撰 百花風月集 全」静香園蔵の紅色元見返し付。関根休庵より佐野蓬宇まで、当時の著名百家の詠歌及び肖像と住所録。なお凡例には、収録人物は「大家又八名家」のみにあらず、故に「単二百家(マ) 風月集ト名付クル」とある。末に「番外追録」として著者の増山守正自身の詠歌及び肖像と著作抜粋、書目を記した八丁を付す。保存良。写真版一五頁参照

出雲寺和泉掾版

連歌論 絵入
三井南家旧蔵
上中下三巻合本

一冊 三、五〇〇

半紙本。元の藍色表紙中央に下巻の元題簽「新/板 増補方角抄 絵入 下」付。本文一部に少虫食、絵の一部に朱の色差し有。「文庫記」男爵三井南家蔵「従五位藤原朝臣三井高陽鑑蔵図書記」(三井高陽)等の旧蔵朱印有。写真版一五頁参照

寛永十四年刊

西村又左衛門版 連歌 三巻合本

一冊 一〇、〇〇〇

大きき一九・五×一四・二。黒表紙(擦れ有)付、外題なし。柱題「随葉上(中・下)(丁数)」。中巻末に「寛永十四年/西村又左衛門梓」の刊記がある。本書は寛永古活字版に次ぐ、製版本では最古の版。上冊(春・夏・秋・冬の四巻)、中冊(恋・名所の二巻)、下冊(神祇・述懐釈教・草木動物等・雑の四巻)の三冊を合本。本文一部に少虫食有。写真版一五頁参照

五 誹 諧 清 鈔 松月堂千翁（不角）編 江戸中期刊 八冊 一六五、〇〇〇
画賛入

半紙本。下部に秋草を筆彩で描いた元表紙に元題簽「四季（いろはにほへとちりぬるを・わかよたれそ・つねならむ）のおく・やまけふこ・ゆめみしゑひもせず）改式大成清鈔（巻数）（巻一・巻七は剥落）付。内題は「誹諧清鈔」柱題は「誹諧新式清鈔」。内容は、巻一は連句の作法、「人倫」より「居処」までの七項目の詞寄と正月から五月までの季寄。巻二は続く六月から十二月までと、これも各月別の「四季祭祀法会、および不角門人による半丁に一句を配した合計五十一の画賛。巻三、八は伊呂波順の詞寄。刊記はない。本文数丁に僅か虫食、又六冊の右上角小口に少傷みもあるも、刷良い上本。画賛にはひな祭りや花見、団扇売、ゆたんぼなど当時の風俗が描かれ興味深い。延享二年に成立した続編のあることが知られるが、ともに伝本は多くない。写真版一六頁参照

六 誹 諧 之 秘 記 芭蕉著（宝暦九年）刊 文栄堂等版 一冊 三〇、八〇〇
誹諧三部書の内

半紙本。元空押模様入り枯色表紙（擦れ）に元題簽「誹諧之秘記 一書」（上部擦れ有）、元見返し付。本文薄い水染み、僅か虫食有。本書は「袖珍抄」「本式并古式」の二冊と合せた三冊本として宝暦九年に刊行されたもの。「はせを」の署名を刻すも偽書とされている。写真版一六頁参照

七 狂 歌 不 卜 集 便々館湖鯉鮒編 文化元年跋刊 三冊 二、〇〇〇
永楽屋東四郎版

中本。元の布目入白茶色表紙（擦れ有）に藍色元題簽「狂歌不卜集 上（下）」（少擦れ）付。本文保存良。「更級神庫神主藤原」（所用者不明）他三顆旧蔵朱印有。写真版一六頁参照

八 廻 百 余 くる ま 三友亭著 文化五年跋刊 一冊 四、八〇〇
廻文狂歌 珍

中本。元の布目模様入薄水色表紙に元題簽「廻／文 百餘くるま 全」（少墨染み）付。石田未得・頓阿・ト養等古詠の廻文狂歌十二首及び自序合せて二丁に続き、自詠の百六十二首二十一丁、文化五年跋（末に「なりまる句」の署名があるが三友亭と同一人か）一丁よりなる。保存は良好。写真版一六頁参照

九 列 仙 列 女 画 像 集 石川雅堂・鹿都部真顔等撰 岳亭・北溪画 文政七年刊 新泉園鷺丸蔵版 二冊 一三、〇〇〇

半紙本。紅刷入白茶色元表紙中央に元題簽「列仙列女画像集 上（下）」付。高点の歌それぞれにちなんだ岳亭画列仙四十四丁、北溪画列女四丁半入。春夏秋冬恋雑（拾遺・後拾遺共）に分け、六樹園・五柳園・四方歌垣・錢廼屋が撰ずる。末に「新泉園蔵書印」の蔵版朱刷印あり。下巻巻頭数丁に少虫食あるほかは刷・保存ともは良好。写真版一七頁参照

和 本

十 狂 歌 節 用 集 六樹園（石川雅堂）等編 岳亭定岡・溪齋英泉画 江戸後期刊 一冊 一六、〇〇〇
色刷絵入 有欠か

半紙本。元の薄水色表紙に元題簽「狂歌節用集」、「六樹園大人／芍薬亭大人／貢菴大人 撰／岳亭定岡画／守川捨魚書／彩色／絵入／節用狂歌集／校合蜀都園序文／催主 貢総連」と刷る元見返し付。本文四十八丁、うち十四丁は彩色刷見開き絵入（岳亭画十図、英泉画四図。但し第三四、五四の十一丁分及び末の十丁ほどを欠くか。一顆印切取痕、下部に極僅かな手擦れもあるも刷・保存とも良好。類題点取狂歌撰集。節用集に做つて天象・地儀・時候・神仏・人倫・伎芸・鳥獸・蟲魚に部類する。絵入狂歌本という性質上、当該書のような有欠本が多く完本の伝本は少ない。写真版一七頁参照

十一 狂 歌 大 和 名 所 抄 童屋海城・鶴屋極好等撰 長水画 天保十三年序刊 雪之舎塾蔵版 一冊 三、五〇〇
色刷口絵入 前・後編揃

半紙本。中央に子持ち枠入で「狂歌大和名所抄 前後」と刷る元の共紙表紙に後補の空押模様入り臙脂色表紙を付す。前・後各編共に詠者の肖像画を含む色刷口絵入。数丁欄外に少虫食あるも刷保存ともは良好。「天香具山」より「笠岡山」までの大和名所九十九か所にちなむ狂歌。「播州赤穂上郡佐藤饅頭俗佐藤要輔」（所用者不明）の旧蔵朱印有。写真版一七頁参照

十二 神 楽 註 秘 抄 ・ 催 馬 楽 註 秘 抄 一条兼良著 江戸中期頃写 一冊 七、五〇〇
雅楽注釈 梁塵愚案抄

二九・五×二一・四種の大木。改装栗皮表紙付、外題なし。「神楽註秘抄」三十丁、「催馬楽註秘抄」二十三丁よりなる。なお、「神楽註秘抄」にのみ康正元年九月十日綾小路有俊の元奥書がある。内容は多く流布するところの「梁塵愚案抄」の、それぞれ上巻と下巻に相当するも小異のあることが知られ、その古態をとどめるものかとされる。朱の校合書入、一部に少虫食、一顆旧蔵緑印有。写真版一七頁参照

十三 空 語 江戸初／前期写 四帖 二六、〇〇〇
観世流 節付 五番綴

「羽衣・はしとみ・江口・楊貴妃・恒政」「仏原・花月・女郎花・三井寺・猩々」「志賀・春日龍神・大倉・誓願寺・是害」「すみ田川・頼政・柏崎・ひかさ・通小町」の、四帖二十番。元の空押模様入り紺表紙中央上部に、内容を墨書した金銀砂子散らし料紙の元題簽、銀砂子散らしの見返し紙付。綴葉装（一帖に綴じ外れ有）。帖の大きさ二四・八×一八・三。本文斐楮交漉料紙。両面書き、片面七行。光悦流の筆跡。数丁ノドに少虫食あるも本文にはかからない。後代の合せ箱に「観世流謡曲／中島成晃氏より／譲り受けたる／本阿弥光悦筆と云ふ謡本四冊／昭和二十年四月二十三日之を書く」「黒川薫（花押）」の箱書がある。写真版一八頁参照

大鏡 江戶中期刊 少後印 神田息胤校合書入有 岡田眞旧蔵 八冊 八、〇〇〇

美濃判。元の藍色表紙中央に元題簽「大鏡 一（〜八）」付。本文に朱の校合書入があり、巻一〜七の各巻末に同筆で「以古写本校合畢／明治廿三年十一月 堅磐居士」の校合奥書、又最終巻末に「大鏡 一三三七八合て五巻以古写本校合畢／右古写本ハ慶長以前の時代あり鳥子紙両面ニ認め手跡最／精美全部揃て三巻希世の珍本にして予の蔵するところなり但板本の四五六巻を欲けり甚惜むべき事なり／明治廿三年十一月 平息胤（花押）」があり、架蔵の「慶長以前」写本と校合した旨の校合奥書がある。神田息胤は幕末明治初期に伊勢神宮欄宜をつとめ郷里新潟に大神宮を創建した人物。「神田文庫」のほか、「岡田眞之藏書」（岡田眞）、「葛尾書屋」（所用者不明）、「綾波」（所用者不明）の旧蔵朱印有。本文一部に少虫食箇所もあるも保存は良好。写真版一八頁参照

〔以呂波字平它〕 天文十九年写 一帖 七〇、〇〇〇
辞書 四二一 一字所収

本の大きさと二六・〇×一六・八。綴葉装（綴じ外れ有）。表紙無く、内題も無いが川瀬一馬『古辞書の研究』に鑑み仮題する。本文少虫食傷み有。每半葉八行、一行八段書き。料紙は厚手の楮紙。空押の界を施す。「以平」「以它」のように、漢字の訓によりイロハ別とし（内、ロ・ル・レ・オの記載無し）更に各部を平・它（他）に分ける。漢字の下に訓を墨で、右横に音を朱で記す。次いで「両音字」、「両音少」、「於一字去声平声ニヨリテ訓読賛事」（声点有）、「於一字両音ニ訓読賛事」（声点有）を取る。本文墨付四十一葉。裏表紙見返しに「天文十九年庚戌卯月十八日於金剛峯寺書之」の書写奥書がある。写真版一九頁参照

東 雅 新井白石著 享保四年序 江戶後期写 一〇冊 三、五〇〇
辞書 二十巻及首一卷揃 少虫食有

美濃判。渋引き表紙に雲紙の書題簽「東雅 一之二（〜十九之二十）」付。本文每半葉十二行書き。中国の「爾雅」にならい、天文・地輿・神祇・人倫・宮室・器用・飲食・穀蔬・果麻・草卉・樹竹・禽鳥・畜獸・鱗介・虫多の十五項目に分け、漢字、訓、および語源解釈を記した。写真版一八頁参照

文 筌 蹄 初編 荻生徂徠著 宝暦三年再版 六冊 一六、八〇〇
沢田吉左衛門版 国語学

半紙本。元の藍色表紙に元題簽「譯文筌蹄 初編 卷一（〜卷六）」（擦れ有）、魁星印ある元見返し付。本文保存は良好。寛政八年刊の後編あるも徂徠の著作にあらずと云う。「林圖書」（所用者不明）の旧蔵朱印有。写真版一九頁参照

七 環海航路日記 広瀬保庵著 相原南浦等画 文久二年頃刊 峨眉山房蔵版 二冊 三六、〇〇〇
色刷絵入

美濃判、元の樺色表紙（少虫食、少染み）に元題簽「環海航路日記 上（下）」（上巻破れ有）、元見返し（虫版印有）付。本文の刷、保存共は良好。万延元年の遣米使節に随行した医師広瀬保庵の旅日記。「芸叢之印」（一関藩主田村家）の旧蔵朱印有。写真版一九頁参照

七 東海道名所図会 秋里籬鳥編 北尾政美等画 寛政九年刊 前川六左衛門等版 六冊 一三、〇〇〇
原裝

美濃判。元の薄水色表紙に薄黄色元題簽「東海道名所圖會（巻数）」完備。初冊に版元印のある藍刷（褪色）の元見返し（少墨染み）、また終冊裏見返しに「製本所／東都書肆 崇文堂／日本橋南三町目／前川六左衛門（版元印あり）」の刊記有。本文一部ノドに少虫食、一冊に少染みあるがいずれもほぼ欄外にとどまる。写真版二〇頁参照

三 菜の花 元文四年刊 三文字屋又四郎・平野屋善六版 一冊 二五、〇〇〇
吉原細見 大田南畝旧蔵 虫食有

一一・五×一七・〇。横本の横本。藍色表紙（虫食傷み有）に「合印し」を刻した元見返し付。「一陰動て陽を生すとかや……」で始まる酔花軒の序文一丁、中の町・あげや町図二丁、本文十八丁の計二十一丁。末に「▲さいけんの圖世間にせ版行有之……」で始まる元文四年正月吉日の刊記あり。元題簽を欠くが、丹羽謙治「天理図書館蔵遊女評判記・細見目録稿（上）」（『ビブリア』一〇六号、一九九六年）に掲載の『菜の花』と同版と思われる。なお当該書は巻頭巻末にそれぞれ「南畝文庫」「大田氏蔵書」（大田南畝）の旧蔵朱印があり、「南畝文庫蔵書目」（国会図書館現蔵）に「同四年丁末細見一卷 菜の花 上紙刷 新吉原あげや丁 三文字屋又四郎／平野や善六」と記載あるその本であろう。写真版二〇頁参照

三 東都歳時記 斎藤月岑編 長谷川雪且画 雪堤補画 天保九年刊 須原屋伊八・茂兵衛合梓 五冊 三、六〇〇

半紙本、元の空押模様水色表紙に元題簽「東都歳時記 一冊上部に極薄い染み、数丁に僅か墨染みあるも刷りは比較的良好。三類旧蔵朱印有。写真版二〇頁参照

五 新板江戸分間絵図 菊岡沾涼画 享保二十一年刊 一鋪 八、〇〇〇
萬屋清兵衛蔵版「続江戸砂子」附図

大きさと六二・八×八六・〇。藍色の元表紙中央に元題簽「新／板 江戸分間繪圖 全」付（少擦れ）。もとは菊岡沾涼著「続江戸砂子」とともに享保二十年に出版されたもので、当該図はその一年後に改訂を加えて出版されたものか。同時代の手彩色（褪色あり）入。保存は良好。写真版二一頁参照

改正昌平御江戸絵図

天保刊
彩色刷入

一冊 五、八〇〇

大きさ四八・三×五二・〇糎。元の水色表紙中央に元題簽「改ノ正 昌平御江戸繪圖」付（少擦れ）。刷・保存はば良。写真版二二頁参照

新肥前長崎図

丙午（弘化三）年求版
牛深屋版
原裝美図

一冊 二、五〇〇

大きさ六五・八×八八糎。黄土色地に藍刷で「新ノ刻 肥前長崎圖」の文字、及び周囲に舶來物の絵を刷る元表紙付。海川は水色、町屋・船などは黄土の二色刷。山はこの二色を重ねて緑色に刷る。「享和二年戊辰六月吉辰」と刷る横に「丙午年求之」と刻されており弘化三年の刊行と思われる。刷・保存とも良。裏表紙に嘉永元年の西川儀兵衛・丈介旧藏墨書有。写真版二二頁参照

光琳画式

尾形光琳画 文化十五年刊
敦賀屋九兵衛・菊屋七郎兵衛喜兵衛版

一冊 二、〇〇〇

美濃判。元の緑色表紙に元題簽「光琳画式 全」付。絵の数箇所に少墨付き、少褪色有。「渋谷氏ノ図書記」、「八木」（共に所用者不明）の旧藏朱印有。写真版二三頁参照

北齋漫画二編

葛飾北齋画（文化十二年）刊
永楽屋東四郎等版
薄墨・砥粉刷入

一冊 三、〇〇〇

半紙本。元の空刷模様入り黄色表紙（薄汚れ）に紅刷元題簽（文字ヤケ）付。本文一丁に少染み、ノドに一部やや虫食、一部下部に少手擦れあるも刷は比較的良い。第十九丁裏の桜図に黄色刷入り。末に「北齋漫画十編」等の記載ある永楽屋藏版目録一丁入り。刊記の永楽屋東四郎の名に「東壁書房」の版元朱印がある。写真版二二頁参照

北齋漫画四編

葛飾北齋画（文化十三年）刊
永楽屋東四郎等版
薄墨・砥粉刷入

一冊 二、〇〇〇

半紙本。元の空刷模様入り白茶色表紙に紅刷元題簽（文字ヤケあり）付。本文ノドに一部少虫食、一部下部に少手擦れあるも刷・保存とも比較的良い。刊記の永楽屋東四郎の名に「東壁書房」の版元朱印がある。一類旧藏朱印有。写真版二二頁参照

今様櫛篋雛形くしの部

葛飾北齋画（文政六年）刊
三冊の内 少虫食有

一冊 六、八〇〇

美濃判二つ切りの横本。元の空押入薄水色表紙に元題簽「今様櫛篋雛形くしの部ノ下」（少擦れ）付。柱題「櫛篋雛形 櫛之部 二十六（四十五）」。本文一部に少虫食あるも刷は比較的良い。完本は「くしの部」二冊と「篋（煙管）の部」一冊よりなる三冊本で、当該書はそのうちの「くしの部」下一冊。櫛のかたちを模した図案見本五十七図ほか、模様やモチーフの例を収める。末に当時中山道木曾の名物であった「お六くし」についての記述一丁半あり。「本多圖書之印」ほか三顆（いずれも所用者不明）旧藏朱印有。写真版二二頁参照

理解 豊稔五穀祭初号

万亭苧賀著 惺々暁齋画 明治五年刊
小林喜右衛門梓 淡彩刷口絵入

一冊 五、八〇〇

中本、元の空押模様人翡翠色表紙中央に絵入藍刷元題簽、黄色料紙の藍刷元見返し付。序文及口絵の一丁に淡彩色刷入り。保存良。写真版二三頁参照

芥子園画譜六譜

原田勝三図集并加筆 明治十四年刊
前川源七郎版 木版淡彩色刷 上本

二冊 三、〇〇〇

半紙本。元の唐紙表紙に元題簽「國ノ画 芥子園畫譜 六譜 乾（坤）」、「宇内諸名家遺墨ノ國畫 人物譜・草木譜・百花譜・禽獸譜・昆蟲譜・魚譜ノ芥子園畫譜ノ大阪芥子園珍藏」と刻す紅色元見返し完備。絵には二種の薄墨及び薄紅色刷入り。乾巻に一丁錯簡あるも、刷・保存共良い上本。「繡雲樓」彦部圖書（明治期桐生の染織図案家彦部忠吉郎か）の旧藏朱印有。写真版二三頁参照

東都富士尽ぬ沼

一勇齋国芳・とり女画 嘉永五年刊
堀江町海老林版

一枚 三、〇〇〇

国芳による役者姿絵「飯沼勝五郎」と、とり女による背景画「九段坂のふし」の合作。少トリミング、少染み、裏打あるも刷は良好。写真版二三頁参照

近世波形紋弥

仮名垣魯文暗記 三代豊国画
文久二（一八六二）年刊 伊勢屋兼吉版

一枚 二七、五〇〇

近世井岡の捨五郎

仮名垣魯文暗記 三代豊国画
文久二（一八六二）年刊 伊勢屋兼吉版

一枚 二七、五〇〇

近世銚子の五郎造

仮名垣魯文暗記 三代豊国画
文久二（一八六二）年刊 伊勢屋兼吉版

一枚 二七、五〇〇

近世神刀奥次

仮名垣魯文暗記 三代豊国画
文久二（一八六二）年刊 伊勢屋兼吉版

一枚 二七、五〇〇

水滸伝 神刀奥次

仮名垣魯文暗記 三代豊国画
文久二（一八六二）年刊 伊勢屋兼吉版

一枚 二七、五〇〇

水滸伝 神刀奥次

中村歌右衛門 僅か虫穴補修

一枚 二七、五〇〇

六 近世 篠崎の政吉 仮名垣魯文暗記 三代豊国画 文久二(1862)年刊 伊勢屋兼吉版 一枚 二四、三〇〇
水滸伝 二四頁参照
坂東彦三郎 トリミンク

六 近世 羅漢の武蔵 仮名垣魯文暗記 三代豊国画 文久二(1862)年刊 伊勢屋兼吉版 一枚 二四、三〇〇
水滸伝 二四頁参照
市川九藏 トリミンク・襷色

六 近世 波切重三 仮名垣魯文暗記 三代豊国画 文久二(1862)年刊 伊勢屋兼吉版 一枚 二四、三〇〇
水滸伝 二四頁参照
尾上梅幸 少虫穴・少トリミンク

六 近世 提緒の猪之介 仮名垣魯文暗記 三代豊国画 文久二(1862)年刊 伊勢屋兼吉版 一枚 二四、三〇〇
水滸伝 二四頁参照
河原崎権十郎 少補修

六 近世 だれの若松 仮名垣魯文暗記 三代豊国画 文久二(1862)年刊 伊勢屋兼吉版 一枚 二四、三〇〇
水滸伝 二四頁参照
市川市蔵 角少破れ・皺

三 山林伐材図解 明治時代前期頃写 紙本彩色 稀 二卷三、五〇、〇〇〇
紙高二六・二糖。象牙色の絹表紙に金箔散らしの書題簽「山林伐材圖解 上
伐木」「山林伐材圖解 下 川狩」付。見返し紙は金銀砂子散らし料紙。本文
料紙は薄葉料紙、但し虫食のため裏打ち、卷子に仕立てている。江戸時代後期
頃の木曾地方や飛騨地方で行われていた伐木・運材の技術について、絵図と詞
書で解説したもの。絵図は作業工程順に、奥山での伐採から木曾川での「梓(い
かだ)」による流送、名古屋熱田神宮近くの白鳥木場から湾内での海上輸送作
業にいたるまで、上巻二十図、下巻二十三図の計四十三図を用いて、筆彩色入
りで丁寧に描かれている。本書にはかねてより林野庁中部森林管理局の所蔵す
る『木曾式伐木運材図会』(以下「林野庁本」と略す)の存在が知られており、
ホームページで公開されている画像データと当該品とを比較するに、当該品は
詞書の仮名づかいにひらがなを用いているが林野庁本はカタカナを用いている
点、また下巻の「小梓」(こいかだ) 図の人物の向きが異なる点が顕著な違い
として認められ、両本の関係性など研究が俟たれるところである。なお当該品
に奥書や旧蔵印などはないが、各図名のわきにローマ字読みをペン書きで記す
ほか、図の上部欄外に「D」や「P」プレートナンバーが記されており、旧蔵者に
外国人のいたことが推測される。虫食跡や経年による点シミはあるものの、当
時の林業の作業工程とその技術の高さをおうかがうに支障なく、伝本の稀少性も
相まって現代に存する貴重な資料であることは疑いない。写真版二五頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

六 金銀山敷岡稼方図 幕末明治初期頃写 彩色上写 四つ目綴じ 黒川家旧蔵 一冊 八〇、〇〇〇
美濃判。元の空押模様入り渋引き表紙に書題簽「金銀山敷岡稼方圖 全」付。
江戸時代の佐渡における稼業の様子を描いたもの。初めに鉱山の入口である釜
ノ口から始まり、採鉱や試掘測量、水揚げなどの坑内の様子、地上での選鉱や
荷分け、運搬、精錬、小判製造、役所での鑑札交付等の坑内採鉱、次に「浜流
稼方」及び「西三川砂金山稼方」と題して砂金採取、運搬、精錬、製造等の地
表採鉱、続いて「辰巳口番所」「金銀改出張役所」「床屋」「後藤役所」「小判所」
それぞれの様子を詳細に描く。佐渡金山の採製全図は主に二種の系統のあるこ
とが知られるが、当該書はそのひとつ「金銀山敷岡稼方図」系統にもう一方の
系統の一部(「辰巳口番所」以下)を加えて成ったものと思われる。巻物形態
が多いこの種の伝本とは異なり四つ目の和綴じ本である点も珍しい。丁の折目
が絵の中央に来ており見づらさは否めないが、「一紙ごと」に丁寧な書写した全九
十一丁を合わせて綴じている。巻頭の遊び紙に「黒川真頼蔵書」「黒川真道蔵
書」「黒川真頼」の朱印、また表紙に「本草」の丸朱印ある黒川真頼・真道の
旧蔵。写真版二六頁参照

七 日月西行 缺

靈遊著 万延元年刊 湖東圓光寺藏版 二冊 五、八〇〇
仏教天文学 図入

美濃判。元の緑色表紙に元題簽「日月西行 缺 本(末)」、元見返し付。本文一部に極僅か虫穴あるも保存はば良、尚数カ所に白墨塗布并墨書がある。「勢州中野行圓寺藏書」の旧藏墨書有。著者靈遊は、『仏國曆象編』を著し梵曆運動を興したことで知られる円通の直弟子。写真版二七頁参照

六 勘者御伽双紙

中根法軸編 寛保三年刊
天王寺屋市郎兵衛書梓
和算 絵入 全三卷 一冊 二、七〇〇

半紙本。元の行成表紙に絵入元題簽「拾/玉 勘者御伽双紙(巻数に「全」と墨書)、「拾/玉 勘者御伽雙紙 全三冊」と刻す絵入元見返し付。本文一部僅か虫食有。写真版二八頁参照

五 和名集并異名製劑記

承応二年刊 山本五兵衛版 一冊 四、五〇〇
上下二巻揃

大本二つ切りの横本。元の藍色表紙(擦れ有)に元題簽「ひら/かな 和名集」付。本文上巻三十七丁、下巻四十二丁よりなる。保存はば良。写真版二七頁参照

四 六諭衍義大意

室鳩巢著 秋田版
教室 文政十三年定田松梧序
石川鳳台版下書 良榮堂刻 一冊 一、五〇〇

美濃判。渋引き表紙(墨書有)に題簽剥落痕有。写真版二八頁参照

三 名玉百人一首

安永三年刊 近江屋市兵衛版 一冊 五、八〇〇
絵入 虫食・水染み傷み 伝本稀

本の大きさ一〇・九×一六・〇糎。元の藍色表紙(擦れ傷み有)中央に子持ち杵の元題簽「名玉百人一首/めいきよくひやくにんいつしゆ 全」付。かるた遊び、正月、雑祭、七夕の様子を描いた口絵二丁に続き、半丁に二首を取めた肖像入の百人一首二十五丁、「小笠原折形図」「十干十二支鈔」等二丁半(少傷み)、刊記半丁(墨悪戯書き有)よりなる。「日本古典籍総合目録データベース」に該当なく、伝本稀。往來物系統の百人一首としては古いほうの部類に入るが、保存にやや難点があり惜しまれる。写真版二八頁参照

二 女訓百人一首

幕末頃刊 小谷卯兵衛版 一冊 四、五〇〇
厚冊 色刷口絵入 保存良

美濃判。空押地に巴紋色刷入り元の白茶色表紙に紅色元題簽「女教師/蕨の鑑 女訓百人一首」付。巻頭に色刷口絵五丁入り。主な内容は肖像入百人一首と女大で、頭書部分に諸々の教養や諸芸知識、消息文例の記載がある。写真版二九頁参照

三 女筆岩根の松

筆海子長谷川妙殊書 寛保二年刊 三冊 五、〇〇〇
岡本半七・四郎兵衛版
往來物 一部少虫食

美濃判。元の刷毛目模様入藍色表紙(擦れ有)中央に元題簽「女筆岩根の松 上(中・下)」、絵入元見返し完備。本文一部に少虫食あるも刷は良い。巻末の筆者名に「妙治」の壺型朱印を捺す。写真版二九頁参照

二 本朝能書伝

橋行精著 安政三年刊 心畫堂藏版 二冊 二、五〇〇
河内屋吉兵衛等版
書道伝記

美濃判。元の空押入渋引き表紙(少擦れ)に元題簽「本朝能書傳 乾(坤)」、元見返し付。本文、特に真蹟摸刻の頁には上質の料紙を用いている。数丁に少虫食あるほかは刷保存はば良。聖武天皇より尊円法親王までの二十一名の伝記、及び弘法大師・藤原道風(藤原信実筆)「道風朝臣像」摸刻二丁入・藤原佐理・藤原行成の真蹟摸刻を収める。刊記頁に続編予告の紙片貼付あり。写真版二九頁参照

一 和蘭語法解

藤林普山訳 文化九年序刊 三冊 三〇、〇〇〇
琵琶園藏版 丁子屋定七等版
オランダ語文法書

半紙本、元の樺色表紙(染み)に元題簽「醫門/須知 和蘭語法解 一(二)」付。巻頭に馬場佐十郎の蘭文による序文三丁入。末冊裏見返しに刊記有(未行の丁子屋定七の名に「瑞寶堂」の版元朱印有)。本書は日本で刊行された最初のオランダ語文法書と云う。本文一部に少虫食あり。写真版二九頁参照

二 坤輿図識

算作者吾 弘化二・三年刊 七冊 七、五〇〇
美作邸夢霞樓藏版
補共 色刷各国国旗入 少虫食有

美濃判、元の藍色表紙(少虫食有)に元題簽「坤輿図識 天(地・人)」「坤輿図識補 一(四)」、本編初冊に薄墨刷絵入元見返し、補編初冊に蔵版印入元見返し付。補編第三冊末に色刷の各国国旗図四丁(僅か虫食有)入。写真版三〇頁参照

一 漢訳伊蘇普譚

阿部弘國訓点 明治九年刊 一冊 五、〇〇〇
青山清吉版
香港英華書院原刻 元袋付

半紙本。元の空刷模様入り黄色表紙に元題簽「漢譯伊蘇普譚 阿部弘國訓点 全」、版元印ある紅色元見返し付。「豺害羊」より「豺求白鶴」までの七十三話。保存良。魁星印・版元印のある元袋付。写真版三〇頁参照

二 新刊音釋校正標類蒙求

李廷機校輯 寛永二十年刊 風月宗智版 一冊 一三、〇〇〇
外題「新蒙求」 絵入

縦長の美濃判。元の栗皮表紙に元題簽「新蒙求 全」付。本文欄外に書入有。一部に僅かな虫食あるほかは刷・保存共はば良。写真版三〇頁参照

和本

一〇九字 彙 明・梅膺祥撰 寛文十一年刊 忠興堂版 一四冊 三、五〇〇

扉題「四声韻字彙」

大本。元の藍色表紙に元題簽（擦れ有）、副題簽（擦れ、加筆有）付。首巻一冊、本文十二冊、巻末一冊よりなる。三冊の一部に少虫食あるも保存はほ良。

写真版三〇頁参照

二〇海 蔵 略 韻 〔虎関師鍊〕著 寛永頃刊 韻字書 西莊文庫旧蔵 二冊 三〇、〇〇〇

大きさに四・二×一六・一。栗皮表紙（元か）に書題簽「海蔵略韻 上（下）」付。上巻は「畧句」（引用書目一覽）一丁と本文十五巻、併せて二百五十丁、内題なし。下巻は十六巻及「爛葛藤」と「人異名」一丁、併せて二百七十四丁、刊記なし。共に厚冊だが保存はほ良。空明（所用者不明）、「西莊文庫」桂窓（小津桂窓）の旧蔵朱印有。「海蔵略韻」はその伝本の少なさもあつて、か長らく虎関師鍊著「聚分韻略」と同書別名本の如く思われがちであつたが、近年別書であるとの認識が広まった。版本としては古活字版が最も古く、本書はその刊行後まもなく覆刻刊行されたと思われる整版本である。

写真版三二頁参照

二一学 原注／叙古千文注 元文三年中原友俊自筆 漢学 虫食有 一冊 五、〇〇〇

共紙表紙の仮綴じ本、本文十五丁。松下見林著『学原』及び胡明仲著『叙古千文』に訓点や注を施したもの。各巻末等に「元文三年夏少外記兼兵部大夫少内記中原友俊写之」云々（花押または朱印あり）の書写奥書がある。

写真版三一頁参照

二二花 帝堂梅百首集 宮田五溪著 文化九年於信州別所刊 漢詩 水染み有 一冊 三〇、八〇〇

美濃判、元の黄土色表紙に書名を打付書き、「五溪先生著／花帝堂梅百首集」と陰刻ある元見返し付。自序二丁半（自署の後に「蓮斎長丹景仙書」と刻す）、目録半丁、本文十六丁。裏見返しに書目および「壬申春日於信州別所／鐫 東都 山政美」の刊記あり。唐体・老杜体・晚唐体・宋体・明体の各二十首、計百首を収める。上部欄外にやや水染み有。「旂誠葯堂之印」他二顆（所用者不明）の旧蔵朱印有。写真版三一頁参照

二三聖 一國師住東福禪寺語録 巴爾辨円述 虎関師鍊校纂 元和六年集雲守藤版 聖一國師語録 一冊 三、五〇〇

縦長の美濃判。枯色表紙付、題簽なし。極僅かな虫食有。最終丁に「右語録以國師年譜再刊／助縁之餘資重刻者也／元和六年庚申臘月下流／見東福集雲叟守藤記之」の原刊記、のどに「春嶽寄附之」の墨書有。写真版三一頁参照

二四禪 林類聚撮要抄 〔万安英種〕著 寛永十九年刊 中野是誰版 〆式カナ抄 虫食有 四冊 三、五〇〇

大本。元の栗皮表紙（虫食補修有）に第四冊元題簽の断片が僅かに残る。柱題「本則抄」。末に刊記「寛永壬午三月吉日 書舎是誰新刊」あり。本文虫食、一部に少水染み有。写真版三一頁参照

二五東 大 寺 切 保安元（一一二〇）年 伝藤原俊頼筆 軸装 一紙 三、五〇、〇〇〇

『三宝絵』断簡、巻中「行基菩薩」の内。『三宝絵』は源為憲が永観二（九八四）年に冷泉天皇の第二皇女・尊子内親王のために仏教を分かりやすく説いた、三巻からなる仏教説話集。原本には名の通り挿絵もあつたと思われるが伝存しない。料紙にうっすらと残る糊代が示すように元は半葉七行からなる粘葉装の冊子本。本断簡は白の具引地に亀甲繫ぎ文の雲母刷模様をほどこした唐紙料紙に薄墨で界を引く。名古屋市博物館の所蔵する、関戸家旧蔵の零本には巻末に「保安元年六月七日書うつしおはりぬ」の奥書があり、『三宝絵』の最古写本であるのみならず、書写年の明らか古筆切としても珍重されてきた。ちなみに保安元年は元永三年であり、『元永本古今集』と同一の筆写年である。「東大寺切」の名の由来は未詳。東大寺伝来の故とも、あるいは東大寺の記事を収めた断簡がそのように名づけられ他の断簡も同様に称されたためとも言われている。漢字と仮名がよく調和する美しい書蹟。伝承筆者は藤原俊頼とされるが、側筆の線とやや縦長の字形を有し、伝紀貫之筆「高野切」第二種風を帯びるといわれる。写真版三二頁参照